

V 分析

V 分析

1. 施設・事業所郵送調査

(1) 健康状況と年齢

障害者支援施設、生活介護、グループホーム・ケアホーム（表ではGHCHと表記）、などの事業所における利用者の健康状況と年齢との関連性をみるために、クロス表を作成し、 χ^2 乗検定を行った。健康状況は、「①元気でこの1年病気らしい病気はない」（以下「1元気」と記述）、「②ときに風邪をひいたり、下痢などをやる程度」（以下「2ときに風邪」と記述）、「③やや病弱（風邪などをひき）でよく医者にかかる」（以下「3やや病弱」と記述）、「④ほとんど病気がちで治療を受けている」（以下「4病気がち」と記述）の4段階であった。年齢は、「40歳未満」「40～49歳」「50～59歳」「60～64歳」「65～69歳」「70～74歳」「75～79歳」「80歳以上」の8段階であった。 χ^2 乗検定の結果、有意差が認められた場合には、どのセルが有意差をもたらしたのかを明らかにするために残差分析を行った。残差分析の結果、調整済み残差の絶対値が5%の標準正規偏差値1.96以上であれば5%水準で有意であるといえることができる。本報告では、調整済み残差の絶対値が1.96以上のセルに注目することとした。

① 知的障害支援施設の健康状況と年齢（表1-1）

知的障害支援施設利用者の全体的な健康状況は、「1元気」と「2ときに風邪」はいずれも40%程度で、両方を合わせると80%を超えていた。「3やや病弱」が12%、「4病気がち」が7%であった。

χ^2 乗検定の結果、1%水準で有意差が見られた。それ故、知的障害支援施設の利用者の健康状況と年齢の間には関連性があるといえよう。有意差が認められたので、残差分析を行った。その結果、「1元気」では、「40歳未満」と「40～49歳」の調整済み残差の値が16.72、3.45と5%水準で有意に期待値よりも大きかった。他方、「50～59歳」から「80歳以上」まで、いずれの年齢段階においても、調整済み残差は-1.96以下であり、いずれも5%水準で有意に期待値よりも小さかった。したがって、知的障害支援施設の利用者の場合、「40歳未満」と「40～49歳」の段階では、元気な人が明らかに多いといえる。他方、「50～59歳」から「80歳以上」まで、いずれの年齢段階においても、元気な人が明らかに少なかった、といえる。

「2ときに風邪」については、いずれの年齢段階においても、有意差をもたらしたセルは認められなかった。

「3やや病弱」に関しては、「40歳未満」「40～49歳」で5%水準で調整済み残差の値は期待値よりも有意に小さかった。また、「50～59歳」から「80歳以上」まで、いずれの年齢段階においても、調整済み残差は1.96以上であり、いずれも5%水準で有意に期待値に比べて大きかった。同様に、「4病気がち」に関しても、調整済み残差の値は「40歳未満」と「40～49歳」で5%水準で有意に小さく、「50～59歳」から「80歳以上」の段階で5%水準で有意に大きかった。したがって、知的障害支援施設の利用者の場合、「40歳未満」と「40～49歳」の段階では、やや病弱の人、病気がちの人は、明らかに少なかったといえる。他方、「50～59歳」から「80歳以上」まで、いずれの年齢段階においても、やや病弱の人、病気がちの人は、明らかに多かった、といえる。

② 知的障害生活介護の健康状況と年齢（表1-2）

知的障害生活介護利用者の全体的な健康状況は、「1 元気」と「2 ときに風邪」はいずれも 45%程度で、両方を合わせると 90%近かった。「3 やや病弱」が 8%、「4 病気がち」が 2%であった。

χ^2 二乗検定の結果、1%水準で有意差が見られた。それ故、知的障害生活介護の利用者の健康状況と年齢との間には関連性があるといえよう。有意差が認められたので、残差分析を行った。その結果、「1 元気」では、「40 歳未満」の調整済み残差は 3.78 と 5%水準で有意に期待値よりも大きかった。「40～49 歳」の調整済み残差は 1.85 と有意差は認められないものの期待値よりも大きかった。他方、「50～59 歳」から「80 歳以上」まで、いずれの年齢段階においても、調整済み残差は -1.96 以下であり、いずれも 5%水準で有意に期待値よりも小さかった。したがって、知的障害生活介護の場合にも、「40 歳未満」と「40～49 歳」の段階では、元気な人が多いといえよう。他方、「50～59 歳」から「80 歳以上」まで、いずれの年齢段階においても、元気な人が明らかに少なかった、といえる。

「2 ときに風邪」については、「60～64 歳」「65～69 歳」「70～74 歳」の 3 個の年齢段階で 1.96 以上の調整済み残差がみられた。したがって、これらの年齢段階ではときに風邪をひいたり下痢をしたりする人が多かったといえよう。

「3 やや病弱」については、「40 歳未満」で調整済み残差が有意に小さく、「50～59 歳」「75～79 歳」「80 歳以上」で調整済み残差が有意に大きかった。したがって、「40 歳未満」ではやや病弱の人は少なく、「50～59 歳」「75～79 歳」「80 歳以上」の年齢段階にある人は、やや病弱の人が多かったといえることができる。

「4 病気がち」においては、「40 歳未満」で調整済み残差が有意に小さく、「50～59 歳」から「75～79 歳」まで、いずれの年齢段階でも調整済み残差が有意に大きかった。したがって、「40 歳未満」では病気がちの人は明らかに少なく、「50～59 歳」から「75～79 歳」にいたるまで、病気がちの人は明らかに多かったといえることができる。

③ 知的障害グループホーム・ケアホームの健康状況と年齢（表1-3）

知的障害グループホーム・ケアホーム利用者の全体的な健康状況は、「1 元気」と「2 ときに風邪」はいずれも 40%を超えており、両方を合わせると 84%であった。「3 やや病弱」が 10.3%、「4 病気がち」が 6%であった。

χ^2 二乗検定の結果、1%水準で有意差が見られた。それ故、知的障害グループホーム・ケアホームの利用者の健康状況と年齢の間にも関連性があるといえよう。残差分析の結果から、以下のようにいえることができる。

「1 元気」については、知的障害生活介護と同様、「40 歳未満」と「40～49 歳」の段階で、元気な人が多いといえよう。

「4 病気がち」についても、「40 歳未満」では病気がちの人は明らかに少なく、「60～64 歳」以降は、病気がちの人は明らかに多かったといえることができる。

④ 身体障害支援施設の健康状況と年齢（表1-4）

身体障害支援施設利用者の全体的な健康状況は、「1 元気」が 30%程度、「2 ときに風邪」が 40%程度であった。そして、「3 やや病弱」と「4 病気がち」とはいずれも 15%に近かった。

χ^2 二乗検定の結果、1%水準で有意差が見られた。それ故、身体障害支援施設の利用者の健

健康状況と年齢との間にも関連性はあるといえよう。しかしながら、「1 元気」の調整済み残差が「50～59 歳」段階で有意に大きく、「70～74 歳」「75～79 歳」で有意に小さかったり、「3 やや病弱」の調整済み残差が「50～59 歳」段階で有意に小さく、「70～74 歳」で有意に大きかったり、「4 病気がち」の調整済み残差が「80 歳以上」で大きかったりしたものの、健康状況と年齢との間で解釈しやすい一定の明確な傾向性は認められなかった。

⑤ 精神障害グループホーム・ケアホームの健康状況と年齢（表 1-5）

精神障害グループホーム・ケアホーム利用者の全体的な健康状況は、「1 元気」が 50%、「2 ときに風邪」は 38%で、両方を合わせると 90%近かった。「3 やや病弱」が 7.1%、「4 病気がち」が 4.6%であった。

χ^2 乗検定の結果、有意差は見られなかった。それ故、精神障害グループホーム・ケアホームの利用者の健康状況と年齢の間には関連性が認められなかった、ということができよう。

表 1-1 健康状況と年代（知的障害 支援施設） p < 0.01

健康状況	1 元気	度数	年代								合計
			40歳未満	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	
		2548	1751	1186	471	240	133	73	24	6426	
		年代の%	48.3	41.3	36.1	29.4	26.1	20.8	21.9	15.3	39.1
		調整済み残差	16.72	3.45	-3.87	-8.34	-8.30	-9.67	-6.51	-6.14	
	2とくに風邪	2190	1800	1394	675	411	290	145	63	6968	
		年代の%	41.5	42.4	42.4	42.1	44.7	45.3	43.4	40.1	42.4
		調整済み残差	-1.47	0.13	0.12	-0.19	1.46	1.54	0.40	-0.57	
	3やや病弱	378	450	429	269	157	118	73	40	1914	
		年代の%	7.2	10.6	13.1	16.8	17.1	18.4	21.9	25.5	11.6
		調整済み残差	-12.27	-2.41	2.85	6.78	5.29	5.48	5.89	5.44	
	4病気がち	157	240	275	187	112	99	43	30	1143	
		年代の%	3.0	5.7	8.4	11.7	12.2	15.5	12.9	19.1	6.9
		調整済み残差	-13.76	-3.83	3.59	7.83	6.42	8.65	4.30	6.02	
合計		度数	5273	4241	3284	1602	920	640	334	157	16451
		年代の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表 1-2 健康状況と年代（知的障害 生活介護） p < 0.01

健康状況	1 元気	度数	年代								合計
			40歳未満	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	
		2554	676	268	110	35	13	6	2	3664	
		年代の%	47.9	48.6	42.1	35.6	31.0	19.7	22.2	9.5	46.4
		調整済み残差	3.78	1.85	-2.24	-3.88	-3.31	-4.37	-2.52	-3.39	
	2とくに風邪	2311	586	279	157	62	41	13	10	3459	
		年代の%	43.3	42.2	43.9	50.8	54.9	62.1	48.1	47.6	43.8
		調整済み残差	-1.26	-1.35	0.04	2.54	2.39	3.01	0.46	0.35	
	3やや病弱	380	102	61	29	8	7	5	8	600	
		年代の%	7.1	7.3	9.6	9.4	7.1	10.6	18.5	38.1	7.6
		調整済み残差	-2.30	-0.40	1.98	1.21	-0.21	0.93	2.15	5.28	
	4病気がち	92	26	28	13	8	5	3	1	176	
		年代の%	1.7	1.9	4.4	4.2	7.1	7.6	11.1	4.8	2.2
		調整済み残差	-4.38	-1.00	3.87	2.40	3.52	2.96	3.13	0.79	
合計		度数	5337	1390	636	309	113	66	27	21	7899
		年代の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

6セルは期待度数が5未満

表 1-3 健康状況と年代（知的障害 GHCH） p < 0.01

健康状況	1 元気	度数	年代								合計
			40歳未満	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	
		1205	760	597	266	108	45	11	4	2996	
		年代の%	48.8	44.4	41.0	34.1	31.5	23.7	19.0	21.1	42.6
		調整済み残差	7.67	1.71	-1.40	-5.13	-4.27	-5.35	-3.66	-1.90	
	2とくに風邪	982	720	616	316	158	87	28	8	2915	
		年代の%	39.7	42.1	42.3	40.5	46.1	45.8	48.3	42.1	41.5
		調整済み残差	-2.16	0.57	0.73	-0.60	1.77	1.23	1.06	0.06	
	3やや病弱	204	167	154	121	32	30	9	4	721	
		年代の%	8.3	9.8	10.6	15.5	9.3	15.8	15.5	21.1	10.3
		調整済み残差	-4.07	-0.79	0.45	5.12	-0.58	2.55	1.33	1.55	
	4病気がち	80	65	89	78	45	28	10	3	398	
		年代の%	3.2	3.8	6.1	10.0	13.1	14.7	17.2	15.8	5.7
		調整済み残差	-6.47	-3.84	0.84	5.55	6.13	5.49	3.83	1.91	
合計		度数	2471	1712	1456	781	343	190	58	19	7030
		年代の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

3セルは期待度数が5未満

表1-4 健康状況と年代(身体障害 支援施設)

p < 0.01

		年代								合計
		40歳未満	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	
健康状況 1元気	度数	313	421	831	530	350	215	73	37	2770
	年代の%	33.1	31.6	35.3	31.4	29.6	27.6	22.9	27.0	31.7
	調整済み残差	0.99	-0.10	4.39	-0.32	-1.64	-2.60	-3.45	-1.19	
2ときに風邪	度数	369	541	930	683	484	328	136	51	3522
	年代の%	39.0	40.6	39.5	40.4	41.0	42.1	42.6	37.2	40.3
	調整済み残差	-0.84	0.23	-0.93	0.12	0.51	1.04	0.86	-0.74	
3やや病弱	度数	127	219	310	242	184	144	57	20	1303
	年代の%	13.4	16.4	13.2	14.3	15.6	18.5	17.9	14.6	14.9
	調整済み残差	-1.35	1.69	-2.78	-0.75	0.69	2.92	1.51	-0.10	
4病気がち	度数	136	152	283	234	163	93	53	29	1143
	年代の%	14.4	11.4	12.0	13.9	13.8	11.9	16.6	21.2	13.1
	調整済み残差	1.27	-1.97	-1.78	1.05	0.79	-1.00	1.91	2.83	
合計	度数	945	1333	2354	1689	1181	780	319	137	8738
	年代の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表1-5 健康状況と年代(精神障害 GHCH)

n.s.

		年代								合計
		40歳未満	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	
健康状況 1元気	度数	85	106	200	152	90	35	14	5	687
	年代の%	53.8	48.0	50.6	52.6	49.7	41.7	40.0	35.7	49.9
2ときに風邪	度数	60	91	156	93	70	36	14	8	528
	年代の%	38.0	41.2	39.5	32.2	38.7	42.9	40.0	57.1	38.3
3やや病弱	度数	12	16	20	29	11	5	4	1	98
	年代の%	7.6	7.2	5.1	10.0	6.1	6.0	11.4	7.1	7.1
4病気がち	度数	1	8	19	15	10	8	3	0	64
	年代の%	0.6	3.6	4.8	5.2	5.5	9.5	8.6	0.0	4.6
合計	度数	158	221	395	289	181	84	35	14	1377
	年代の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

5セルは期待度数が5未満

(2) 支援の程度と年齢

1) 日常生活面の支援の程度と年齢

障害者支援施設、生活介護、グループホーム・ケアホーム、などの事業所における利用者の日常生活面の支援の程度と年齢との関連性をみるために、クロス表を作成し、 χ^2 乗検定を行った。日常生活面の支援の程度は、重い段階から軽い段階に向けて、順に1級、2級、3級、4級、5級であった。年齢は、「40歳未満」「40～49歳」「50～59歳」「60～64歳」「65～69歳」「70～74歳」「75～79歳」「80歳以上」の8段階であった。 χ^2 乗検定の結果、有意差が認められた場合には、どのセルが有意差をもたらしたのかを明らかにするために残差分析を行った。残差分析の結果、調整済み残差の絶対値が1.96以上のセルに注目することとした。

① 知的障害支援施設の日常生活面の支援程度と年齢(表2-1)

知的障害支援施設利用者の日常生活面の全体的な支援の程度は、1級と4級とが15%程度、2級と3級とが約33%、そして5級は3.5%であった。

χ^2 乗検定の結果、1%水準で有意差が見られた。それ故、知的障害支援施設の利用者の日常生活面の支援の程度と年齢との間には関連性があるといえよう。支援の程度が最も重い1級をみると、「40～49歳」は調整済み残差の値が有意に大きかった。また、「40歳未満」についても有意とは言えなかったが、1.68とプラスの値を示していた。他方、「50～59歳」以降ではいずれも調整済み残差がマイナスの値を示し、「65～69歳」「70～74歳」は有意に小さかった。したがって、日常生活面の支援の程度の最も重い1級は、49歳以下で比較的多く、50歳以上で比較的少ないといえよう。同様な傾向は、2級においても認められた。3級、4級については、

49歳以下で比較的少なく、50歳以降で多くなっていた。

② 知的障害生活介護の日常生活面の支援程度と年齢（表2-2）

知的障害生活介護利用者の日常生活面の全体的な支援の程度は、1級が約15%、4級が20%程度、2級が25%程度、3級が30%程度であった。5級は最も少なく7%であった。

χ^2 乗検定の結果、1%水準で有意差が見られた。それ故、知的障害生活介護の利用者の日常生活面の支援の程度と年齢の間には関連性があるといえよう。1級および2級については、40歳未満で調整済み残差が有意に大きく、40歳以降では調整済み残差はすべてマイナスの値を示していた。したがって、1級と2級は40歳未満で多く、40歳以降少なくなっているといえよう。他方、3、4、5級については、調整済み残差は40歳未満で有意に小さかった。そして、40歳以降になると大部分の年齢段階において調整済み残差はプラスの値を示していた。したがって、3、4、5級は40歳未満で明らかに少なく、40歳以降になると多くなっているといえよう。

③ 知的障害グループホーム・ケアホームの日常生活面の支援程度と年齢（表2-3）

知的障害グループホーム・ケアホーム利用者の日常生活面の全体的な支援の程度は、1級は最も少なく1.5%であった。2級が12%程度、3級と4級とが35%程度、5級は15%であった。

χ^2 乗検定の結果、1%水準で有意差が見られた。それ故、知的障害グループホーム・ケアホームの利用者の日常生活面の支援の程度と年齢の間には関連性があるといえよう。最も支援の程度が少ない5級については、40歳未満が明らかに多く、60歳以降で少なくなっているといえる。しかし、1～4級に関しては、調整済み残差をみても一定の傾向は認められなかった。

④ 身体障害支援施設の日常生活面の支援程度と年齢（表2-4）

身体障害支援施設利用者の日常生活面の全体的な支援の程度をみると、1級は34%と他の事業所と比較して多かった。2級も31%、3級は20%で、1級から3級までで合わせて85%であった。4級は9%、5級は5%と少なかった。

χ^2 乗検定の結果、1%水準で有意差が見られた。それ故、身体障害支援施設の利用者の日常生活面の支援の程度と年齢の間には関連性があるといえよう。1級は、40歳未満が明らかに多かった。他方、「50～59歳」「60～64歳」「65～69歳」は有意に少なかった。2～5級については40歳未満は明らかに少なかったが、40歳以降は明らかな傾向は認められなかった。

⑤ 精神障害グループホーム・ケアホームの日常生活面の支援程度と年齢（表2-5）

精神障害グループホーム・ケアホーム利用者の日常生活面の全体的な支援の程度は、1級は1%と他の事業所と比較して最も少なかった。2級も13%と少なかった。3級が27%、4級が55%で3級と4級とを合わせて82%と多かった。5級は4%と少なかった。

χ^2 乗検定の結果、有意差は見られなかった。それ故、精神障害グループホーム・ケアホーム利用者の日常生活面の支援の程度と年齢の間には関連性が認められなかった、ということができよう。

2) 行動面の支援の程度と年齢

日常生活面の支援の程度と同様に、行動面の支援の程度と年齢について分析検討を行った。

① 知的障害支援施設の行動面の支援程度と年齢（表3-1）

知的障害支援施設利用者の行動面の全体的な支援の程度は、1級と4級とが15%程度、2級と3級とが30%台、そして5級は4%であった。

χ 二乗検定の結果、1%水準で有意差が見られた。それ故、知的障害支援施設の利用者の行動面の支援の程度と年齢との間には関連性があるといえよう。支援の程度が重い1級、2級をみると、「40歳未満」および「40～49歳」は有意に多かった。他方、「50～59歳」以降ではどの年齢段階でも有意に少なかった。3級、4級については、1級、2級とは逆に49歳以下では有意に少なく、50歳以降では有意に多くなっていた。5級についても、「40歳未満」および「40～49歳」は有意に少なかった。そして、「60～64歳」以降では、有意に多くなっていた。

② 知的障害生活介護の行動面の支援程度と年齢（表3-2）

知的障害生活介護利用者の行動面の全体的な支援の程度は、1級と3級とが20%程度であった。2級は9%であった。4級は32%と多く、5級は19%であった。

χ 二乗検定の結果、1%水準で有意差が見られた。それ故、知的障害生活介護の利用者の行動面の支援の程度と年齢との間には関連性があるといえよう。1級は40歳未満で有意に多かった。40歳以降はすべての年齢段階で有意に少なくなっている。他方、2級、3級は、40歳未満で有意に少なく、40歳以降では大部分の年齢段階で多くなっていた。4級、5級については、40歳未満で有意に多かった。そして、40歳以降では大部分の年齢段階で少なくなっていた。

③ 知的障害グループホーム・ケアホームの行動面の支援程度と年齢（表3-3）

知的障害グループホーム・ケアホーム利用者の行動面の全体的な支援の程度は、1級は2%と少なかった。2級は10%であった。3級は約40%、4級は33%と比較的多かった。5級は16%であった。

χ 二乗検定の結果、1%水準で有意差が見られた。それ故、知的障害グループホーム・ケアホームの利用者の行動面の支援の程度と年齢との間には関連性があるといえよう。しかし、行動面の支援程度と年齢段階との間には、調整済み残差をみても一定の傾向は認められなかった。

④ 身体障害支援施設の行動面の支援程度と年齢（表3-4）

身体障害支援施設利用者の行動面の全体的な支援の程度は、1級が8%、2級が14%であった。3級と4級とが20%程度、そして5級は35%で比較的多かった。

χ 二乗検定の結果、1%水準で有意差が見られた。それ故、身体障害支援施設の利用者の行動面の支援の程度と年齢との間には関連性があるといえよう。1級は49歳以下で、2級は59歳以下で多かった。そして、1級は60歳以降で、2級は65歳以降で少なくなっていた。4級、5級は49歳以下で比較的少なく、60歳以降で比較的多くなっていた。

⑤ 精神障害グループホーム・ケアホームの行動面の支援程度と年齢（表3-5）

精神障害グループホーム・ケアホーム利用者の行動面の全体的な支援の程度は、1級は0.3%と他の事業所と比較して最も少なかった。2級も7%と少なかった。3級、4級、5級は30%前後であった。

χ 二乗検定の結果、有意差は見られなかった。それ故、精神障害グループホーム・ケアホー

ム利用者の行動面の支援の程度と年齢との間には関連性が認められなかった、ということができよう。

3) 保健面の支援の程度と年齢

日常生活面、行動面の支援の程度と同様に、保健面の支援の程度と年齢について、分析検討を行なった。

① 知的障害支援施設の保健面の支援程度と年齢（表4-1）

知的障害支援施設利用者の保健面の全体的な支援の程度は、1級と5級が6%程度と少なかった。2級は17%で、3級と4級とが30%以上と多かった。

χ^2 乗検定の結果、1%水準で有意差が見られた。それ故、知的障害支援施設の利用者の保健面の支援の程度と年齢の間には関連性があるといえよう。有意差が認められたので、残差分析を行った。その結果、1級、2級は40歳未満では比較的少なかったが、60歳以降では多かった。5級は40歳未満で多く、50歳以降明らかに少なくなっていた。

② 知的障害生活介護の保健面の支援程度と年齢（表4-2）

知的障害生活介護利用者の保健面の全体的な支援の程度は、1級は4%と少なかった。2級が12%、5級が17%と比較的少なく、3級が29%、4級が39%と比較的多かった。

χ^2 乗検定の結果、1%水準で有意差が見られた。それ故、知的障害生活介護の利用者の保健面の支援の程度と年齢の間には関連性があるといえよう。有意差が認められたので、残差分析を行った。その結果、1級は概して少なかったが、その中では、49歳以下が比較的多かった。5級は、40歳未満で多かったが、50歳以降少なくなっていた。

③ 知的障害グループホーム・ケアホームの保健面の支援程度と年齢（表4-3）

知的障害グループホーム・ケアホーム利用者の保健面の全体的な支援の程度は、1級は0.4%と少なかった。また、2級についても4%と少なかった。4級が55%と最も多かった。3級は23%、5級が17%であった。

χ^2 乗検定の結果、1%水準で有意差が見られた。それ故、知的障害グループホーム・ケアホームの利用者の保健面の支援の程度と年齢の間には関連性があるといえよう。有意差が認められたので、残差分析を行った。その結果、2級、3級は40歳未満で有意に少なく、70歳以上で有意に多かった。5級は、40歳未満で多く、40歳以降少なくなっていた。

④ 身体障害支援施設の保健面の支援程度と年齢（表4-4）

身体障害支援施設利用者の保健面の全体的な支援の程度は、1級が10%、5級が6%と比較的少なかった。3級と4級とが30%以上で、多かった。

χ^2 乗検定の結果、1%水準で有意差が見られた。それ故、知的障害グループホーム・ケアホームの利用者の保健面の支援の程度と年齢の間には関連性があるといえよう。有意差が認められたので、残差分析を行った。その結果、1級、2級は40歳未満と75歳以上で多かった。3～5級においても有意差をもたらすセルがいくつか見られたが、一定の傾向は認められなかった。

⑤ 精神障害グループホーム・ケアホームの保健面の支援程度と年齢（表4-5）

精神障害グループホーム・ケアホーム利用者の保健面の全体的な支援の程度は、1級は0.5%と少なかった。2級も5%と少なかった。3級と5級は25%であった。4級は45%と最も多かった。

χ^2 乗検定の結果、有意差は見られなかった。それ故、精神障害グループホーム・ケアホーム利用者の保健面の支援の程度と年齢との間には関連性が認められなかった、ということができよう。

表2-1 日常生活面の支援の程度と年代のクロス表(知的支援施設) p < 0.01

			年代							合計
			40歳未満	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75歳以上	
支援の程度	1級 重い	度数	857	762	482	231	108	81	70	2591
		年代の%	16.0	17.2	14.2	14.0	11.2	12.4	13.7	15.3
		調整済み残差	1.68	4.18	-1.89	-1.52	-3.60	-2.11	-1.00	
	2級	度数	1917	1577	1069	444	266	183	153	5609
		年代の%	35.7	35.6	31.5	26.9	27.6	27.9	29.9	33.1
		調整済み残差	4.95	4.22	-2.09	-5.60	-3.69	-2.84	-1.52	
	3級	度数	1673	1461	1207	556	334	254	199	5684
		年代の%	31.1	33.0	35.6	33.7	34.7	38.8	38.9	33.5
		調整済み残差	-4.42	-0.81	2.92	0.16	0.80	2.92	2.65	
	4級	度数	709	524	525	345	205	116	70	2494
		年代の%	13.2	11.8	15.5	20.9	21.3	17.7	13.7	14.7
		調整済み残差	-3.76	-6.26	1.46	7.49	5.95	2.22	-0.65	
	5級 軽い	度数	216	103	106	75	50	21	19	590
		年代の%	4.0	2.3	3.1	4.5	5.2	3.2	3.7	3.5
		調整済み残差	2.63	-4.86	-1.24	2.49	2.99	-0.39	0.30	
合計		度数	5372	4427	3389	1651	963	655	511	16968
		年代の%	100	100	100	100	100	100	100	100

0セルは期待度数が5未満

表2-2 日常生活面の支援の程度と年代のクロス表(知的生活介護) p < 0.01

			年代							合計
			40歳未満	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75歳以上	
支援の程度	1級	度数	961	166	55	17	13	6	5	1223
		年代の%	17.7	11.6	8.3	5.4	10.8	8.2	9.1	15.2
		調整済み残差	9.25	-4.13	-5.09	-4.91	-1.33	-1.66	-1.26	
	2級	度数	1514	324	133	51	24	11	9	2066
		年代の%	27.9	22.6	20.2	16.2	20.0	15.1	16.4	25.6
		調整済み残差	6.89	-2.83	-3.33	-3.88	-1.42	-2.07	-1.58	
	3級	度数	1622	469	221	113	34	31	28	2518
		年代の%	29.9	32.8	33.5	36.0	28.3	42.5	50.9	31.2
		調整済み残差	-3.51	1.42	1.35	1.87	-0.68	2.09	3.17	
	4級	度数	1020	368	197	95	35	17	9	1741
		年代の%	18.8	25.7	29.9	30.3	29.2	23.3	16.4	21.6
		調整済み残差	-8.58	4.20	5.42	3.81	2.04	0.36	-0.94	
	5級	度数	301	104	53	38	14	8	4	522
		年代の%	5.6	7.3	8.0	12.1	11.7	11.0	7.3	6.5
		調整済み残差	-4.77	1.36	1.71	4.14	2.33	1.57	0.24	
合計		度数	5418	1431	659	314	120	73	55	8070
		年代の%	100	100	100	100	100	100	100	100

2セルは期待度数が5未満

表2-3 日常生活面の支援の程度と年代のクロス表(知的GHCH)

p < 0.01

			年代							合計
			40歳未満	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75歳以上	
支援の程度	1級	度数	50	22	19	14	3	3	1	112
		年代の%	2.0	1.3	1.3	1.7	.9	1.6	1.3	1.5
		調整済み残差	2.11	-1.11	-1.02	0.38	-1.08	0.07	-0.20	
	2級	度数	302	220	152	109	48	34	18	883
		年代の%	11.8	12.6	10.0	13.2	13.6	18.2	22.8	12.2
		調整済み残差	-0.66	0.62	-2.85	0.99	0.87	2.56	2.91	
	3級	度数	815	627	517	298	127	77	31	2492
		年代の%	31.9	35.8	34.1	36.1	36.1	41.2	39.2	34.3
		調整済み残差	-3.21	1.56	-0.18	1.17	0.72	2.01	0.93	
	4級	度数	942	601	579	321	133	54	26	2656
		年代の%	36.8	34.4	38.2	38.9	37.8	28.9	32.9	36.6
		調整済み残差	0.37	-2.19	1.48	1.49	0.49	-2.21	-0.68	
	5級	度数	448	279	249	83	41	19	3	1122
		年代の%	17.5	16.0	16.4	10.1	11.6	10.2	3.8	15.4
		調整済み残差	3.61	0.67	1.19	-4.54	-2.02	-2.03	-2.88	
合計		度数	2557	1749	1516	825	352	187	79	7265
		年代の%	100	100	100	100	100	100	100	100

2セルは期待度数が5未満

表2-4日常生活面の支援の程度と年代のクロス表(身体支援施設)

p < 0.01

			年代							合計
			40歳未満	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75歳以上	
支援の程度	1級	度数	466	362	555	383	286	194	152	2398
		年代の%	55.4	35.8	29.7	28.6	31.3	31.0	37.6	34.2
		調整済み残差	13.79	1.14	-4.85	-4.83	-2.01	-1.77	1.48	
	2級	度数	191	330	629	423	279	187	129	2168
		年代の%	22.7	32.6	33.6	31.6	30.5	29.9	31.9	31.0
		調整済み残差	-5.51	1.25	2.93	0.56	-0.30	-0.59	0.44	
	3級	度数	121	183	385	311	198	157	71	1426
		年代の%	14.4	18.1	20.6	23.2	21.7	25.1	17.6	20.4
		調整済み残差	-4.59	-1.93	0.29	2.90	1.05	3.10	-1.43	
	4級	度数	48	81	189	140	84	60	32	634
		年代の%	5.7	8.0	10.1	10.5	9.2	9.6	7.9	9.1
		調整済み残差	-3.60	-1.25	1.86	1.99	0.16	0.50	-0.82	
	5級	度数	15	55	112	82	67	27	20	378
		年代の%	1.8	5.4	6.0	6.1	7.3	4.3	5.0	5.4
		調整済み残差	-4.94	0.07	1.32	1.31	2.77	-1.25	-0.41	
合計		度数	841	1011	1870	1339	914	625	404	7004
		年代の%	100	100	100	100	100	100	100	100

0セルは期待度数が5未満

表2-5 日常生活面の支援の程度と年代のクロス表(精神GHCH)

n.s.

			年代							合計	
			40歳未満	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75歳以上		
支援の程度	1級	度数	1	1	2	0	1	1	0	6	
		年代の%	1.3	.9	1.0	.0	1.1	2.2	.0	.9	
	2級	度数	12	15	19	24	9	7	2	88	
		年代の%	15.4	14.2	9.7	15.7	10.3	15.6	9.1	12.8	
	3級	度数	16	37	54	39	25	10	7	188	
		年代の%	20.5	34.9	27.7	25.5	28.7	22.2	31.8	27.4	
	4級	度数	44	47	115	84	50	25	13	378	
		年代の%	56.4	44.3	59.0	54.9	57.5	55.6	59.1	55.1	
	5級	度数	5	6	5	6	2	2	0	26	
		年代の%	6.4	5.7	2.6	3.9	2.3	4.4	.0	3.8	
	合計		度数	78	106	195	153	87	45	22	686
			年代の%	100	100	100	100	100	100	100	100

13セルは期待度数が5未満

表3-1 行動面の支援の程度と年代のクロス表(知的支援施設)

p < 0.01

			年代							合計
			40歳未満	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75歳以上	
支援の程度	1級	度数	1008	649	344	155	66	45	38	2305
		年代の%	18.7	14.7	10.1	9.4	6.9	6.8	7.3	13.6
		調整済み残差	13.37	2.50	-6.53	-5.26	-6.19	-5.15	-4.21	
	2級	度数	1905	1520	925	327	211	131	92	5111
		年代の%	35.4	34.4	27.3	19.8	22.1	19.9	17.8	30.1
		調整済み残差	10.26	7.22	-4.02	-9.65	-5.56	-5.82	-6.22	
	3級	度数	1708	1571	1430	713	414	281	235	6352
		年代の%	31.8	35.6	42.2	43.1	43.4	42.7	45.4	37.4
		調整済み残差	-10.40	-2.99	6.39	5.03	3.90	2.86	3.79	
	4級	度数	589	557	567	367	208	162	112	2562
		年代の%	10.9	12.6	16.7	22.2	21.8	24.6	21.6	15.1
		調整済み残差	-10.27	-5.37	2.96	8.48	5.94	6.96	4.22	
	5級	度数	169	122	125	92	56	39	41	644
		年代の%	3.1	2.8	3.7	5.6	5.9	5.9	7.9	3.8
		調整済み残差	-3.03	-4.18	-0.37	3.96	3.45	2.92	4.99	
合計		度数	5379	4419	3391	1654	955	658	518	16974
		年代の%	100	100	100	100	100	100	100	100

表3-2 行動面の支援の程度と年代のクロス表(知的生活介護)

p < 0.01

			年代							合計
			40歳未満	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75歳以上	
支援の程度	1級	度数	816	137	34	15	6	0	0	1008
		年代の%	35.1	9.7	5.2	4.7	5.0	.0	.0	20.4
		調整済み残差	24.19	-11.73	-10.39	-7.12	-4.20	-4.17	-3.74	
	2級	度数	0	288	88	36	17	12	8	449
		年代の%	.0	20.4	13.4	11.4	14.3	17.9	14.8	9.1
		調整済み残差	-20.93	17.56	4.13	1.49	2.01	2.54	1.48	
	3級	度数	0	509	251	133	47	24	10	974
		年代の%	.0	36.1	38.1	42.1	39.5	35.8	18.5	19.7
		調整済み残差	-32.80	18.35	12.80	10.36	5.51	3.35	-0.21	
	4級	度数	910	319	198	88	33	26	28	1602
		年代の%	39.1	22.6	30.1	27.8	27.7	38.8	51.9	32.4
		調整済み残差	9.55	-9.23	-1.33	-1.77	-1.09	1.14	3.08	
	5級	度数	602	157	87	44	16	5	8	919
		年代の%	25.9	11.1	13.2	13.9	13.4	7.5	14.8	18.6
		調整済み残差	12.45	-8.48	-3.78	-2.19	-1.45	-2.35	-0.71	
合計		度数	2328	1410	658	316	119	67	54	4952
		年代の%	100	100	100	100	100	100	100	100

1セルは期待度数が5未満

表3-3 行動面の支援の程度と年代のクロス表(知的GHCH)

p < 0.01

			年代							合計
			40歳未満	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75歳以上	
支援の程度	1級	度数	56	27	12	5	2	5	2	109
		年代の%	2.2	1.5	.8	.6	.6	2.6	2.6	1.5
		調整済み残差	3.58	0.17	-2.58	-2.23	-1.47	1.31	0.79	
	2級	度数	266	197	119	82	26	14	16	720
		年代の%	10.4	11.3	7.8	10.0	7.4	7.4	20.8	9.9
		調整済み残差	1.07	2.17	-3.11	0.10	-1.60	-1.17	3.20	
	3級	度数	975	689	594	355	146	83	29	2871
		年代の%	38.3	39.5	39.0	43.4	41.7	43.9	37.7	39.6
		調整済み残差	-1.70	-0.13	-0.53	2.36	0.83	1.23	-0.35	
	4級	度数	834	547	559	275	119	58	18	2410
		年代の%	32.7	31.3	36.7	33.6	34.0	30.7	23.4	33.2
		調整済み残差	-0.67	-1.94	3.23	0.25	0.31	-0.75	-1.85	
	5級	度数	417	286	239	101	57	29	12	1141
		年代の%	16.4	16.4	15.7	12.3	16.3	15.3	15.6	15.7
		調整済み残差	1.08	0.85	-0.05	-2.83	0.29	-0.15	-0.04	
合計		度数	2548	1746	1523	818	350	189	77	7251
		年代の%	100	100	100	100	100	100	100	100

2セルは期待度数が5未満

表4-1 保健面の支援の程度と年代のクロス表(知的支援施設)

p < 0.01

			年代							合計
			40歳未満	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75歳以上	
支援の程度	1級	度数	287	248	191	121	70	53	36	1006
		年代の%	5.4	5.6	5.7	7.4	7.4	8.0	7.0	6.0
		調整済み残差	-2.08	-1.12	-0.83	2.57	1.84	2.27	0.96	
	2級	度数	781	782	597	303	184	150	116	2913
		年代の%	14.7	17.8	17.8	18.6	19.3	22.8	22.4	17.3
		調整済み残差	-5.98	0.93	0.74	1.41	1.68	3.76	3.12	
	3級	度数	2114	1772	1349	560	327	210	196	6528
		年代の%	39.9	40.3	40.1	34.3	34.3	31.9	37.9	38.8
		調整済み残差	1.99	2.32	1.72	-3.91	-2.91	-3.74	-0.43	
	4級	度数	1612	1342	1073	570	336	230	156	5319
		年代の%	30.4	30.5	31.9	34.9	35.3	34.9	30.2	31.6
		調整済み残差	-2.24	-1.87	0.38	3.03	2.50	1.84	-0.72	
	5級	度数	501	255	153	77	35	16	13	1050
		年代の%	9.5	5.8	4.5	4.7	3.7	2.4	2.5	6.2
		調整済み残差	11.69	-1.43	-4.54	-2.68	-3.37	-4.13	-3.56	
合計		度数	5295	4399	3363	1631	952	659	517	16816
		年代の%	100	100	100	100	100	100	100	100

表4-2 保健面の支援の程度と年代のクロス表(知的生活介護)

p < 0.01

			年代							合計
			40歳未満	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75歳以上	
支援の程度	1級	度数	218	55	12	3	1	2	0	291
		年代の%	4.0	3.8	1.8	1.0	.8	2.7	.0	3.6
		調整済み残差	2.92	0.48	-2.58	-2.55	-1.66	-0.40	-1.44	
	2級	度数	684	167	74	28	20	9	9	991
		年代の%	12.7	11.6	11.2	9.0	16.4	12.3	16.4	12.3
		調整済み残差	1.44	-0.87	-0.89	-1.80	1.39	0.01	0.92	
	3級	度数	1525	406	198	99	39	26	14	2307
		年代の%	28.2	28.2	30.0	31.8	32.0	35.6	25.5	28.6
		調整済み残差	-1.10	-0.36	0.80	1.29	0.83	1.33	-0.52	
	4級	度数	1974	592	299	146	54	34	32	3131
		年代の%	36.5	41.1	45.2	46.9	44.3	46.6	58.2	38.8
		調整済み残差	-6.03	1.99	3.53	3.00	1.24	1.37	2.96	
	5級	度数	1004	219	78	35	8	2	0	1346
		年代の%	18.6	15.2	11.8	11.3	6.6	2.7	.0	16.7
		調整済み残差	6.48	-1.65	-3.52	-2.62	-3.02	-3.21	-3.33	
合計		度数	5405	1439	661	311	122	73	55	8066
		年代の%	100	100	100	100	100	100	100	100

3セルは期待度数が5未満

表4-3 保健面の支援の程度と年代のクロス表(知的GHCH)

p < 0.01

			年代							合計
			40歳未満	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75歳以上	
支援の程度	1級	度数	10	7	7	4	0	0	4	32
		年代の%	.4	.4	.5	.5	.0	.0	5.0	.4
		調整済み残差	-0.46	-0.29	0.14	0.21	-1.28	-0.95	6.20	
	2級	度数	79	67	71	42	15	21	11	306
		年代の%	3.1	3.8	4.7	5.1	4.3	10.6	13.8	4.2
		調整済み残差	-3.47	-0.91	1.03	1.35	0.05	4.55	4.28	
	3級	度数	508	434	355	216	90	65	28	1696
		年代の%	19.9	24.8	23.4	26.2	25.6	32.8	35.0	23.3
		調整済み残差	-5.06	1.68	0.08	2.09	1.03	3.21	2.49	
	4級	度数	1295	984	876	497	224	99	35	4010
		年代の%	50.7	56.2	57.7	60.3	63.6	50.0	43.8	55.1
		調整済み残差	-5.53	1.05	2.28	3.19	3.30	-1.47	-2.05	
	5級	度数	661	259	209	65	23	13	2	1232
		年代の%	25.9	14.8	13.8	7.9	6.5	6.6	2.5	16.9
		調整済み残差	14.98	-2.74	-3.70	-7.35	-5.33	-3.94	-3.46	
合計		度数	2553	1751	1518	824	352	198	80	7276
		年代の%	100	100	100	100	100	100	100	100

5セルは期待度数が5未満

表4-4 保健面の支援の程度と年代のクロス表(身体支援施設)

p < 0.01

			年代						合計	
			40歳未満	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳		75歳以上
支援の程度	1級	度数	94	104	173	114	65	62	51	663
		年代の%	12.2	10.1	9.1	8.4	7.0	9.8	13.1	9.5
		調整済み残差	2.74	0.74	-0.61	-1.50	-2.73	0.29	2.56	
	2級	度数	173	218	318	233	177	108	93	1320
		年代の%	22.4	21.1	16.7	17.1	19.1	17.0	24.0	18.8
		調整済み残差	2.71	2.05	-2.73	-1.77	0.23	-1.21	2.67	
	3級	度数	235	303	626	431	272	196	97	2160
		年代の%	30.4	29.4	32.9	31.7	29.3	30.9	25.0	30.8
		調整済み残差	-0.23	-1.08	2.36	0.80	-1.03	0.07	-2.54	
	4級	度数	227	340	672	509	356	232	135	2471
		年代の%	29.4	32.9	35.3	37.4	38.4	36.6	34.8	35.2
		調整済み残差	-3.59	-1.66	0.13	1.89	2.17	0.75	-0.18	
	5級	度数	43	67	112	73	57	36	12	400
		年代の%	5.6	6.5	5.9	5.4	6.1	5.7	3.1	5.7
		調整済み残差	-0.17	1.18	0.42	-0.59	0.63	-0.03	-2.28	
合計		度数	772	1032	1901	1360	927	634	388	7014
		年代の%	100	100	100	100	100	100	100	100

表4-5 保健面の支援の程度と年代のクロス表(精神GHCH)

n.s.

			年代						合計	
			40歳未満	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳		75歳以上
支援の程度	1級	度数	0	1	1	1	1	0	5	
		年代の%	.0	.7	.3	.5	.7	1.4	.0	.5
	2級	度数	2	6	8	16	6	3	4	45
		年代の%	1.7	4.1	2.8	8.0	4.4	4.3	12.5	4.6
	3級	度数	25	43	75	50	25	15	11	244
		年代の%	21.6	29.5	26.1	25.0	18.5	21.7	34.4	24.8
	4級	度数	55	58	128	92	62	40	12	447
		年代の%	47.4	39.7	44.6	46.0	45.9	58.0	37.5	45.4
	5級	度数	34	38	75	41	41	10	5	244
		年代の%	29.3	26.0	26.1	20.5	30.4	14.5	15.6	24.8
合計		度数	116	146	287	200	135	69	32	985
		年代の%	100	100	100	100	100	100	100	100

9セルは期待度数が5未満

(3) 高齢化・老化と年齢

障害者支援施設、生活介護、グループホーム・ケアホームなどの事業所における利用者の高齢化・老化状況と年齢との関連性について分析を行った。

1) 高齢化・老化問題と年齢

利用者の高齢化・老化問題と年齢との関連性をみるために、クロス表を作成し、 χ^2 二乗検定を行った。高齢化・老化問題は、「①問題となっている」(以下「問題あり」と記述)、「②特に問題となっていない」(以下「問題なし」と記述)の2段階であった。年齢は、「40歳未満」「40～49歳」「50～59歳」「60～64歳」「65～69歳」「70～74歳」「75～79歳」「80歳以上」の8段階であった。 χ^2 二乗検定の結果、有意差が認められた場合には、どのセルが有意差をもたらしたのかを明らかにするために残差分析を行った。残差分析の結果については、調整済み残差の絶対値が5%の標準正規偏差値1.96以上のセルに注目することとする。

① 知的障害支援施設利用者の高齢化・老化と年齢 (表5-1)

知的障害支援施設利用者の高齢化・老化は、「問題あり」が24.5%、「問題なし」が75.5%であった。

χ 二乗検定の結果、1%水準で有意差が見られた。それ故、知的障害支援施設利用者の高齢化・老化と年齢との間には関連性があるといえよう。有意差が認められたので、残差分析を行った。その結果、40歳未満と40～49歳は、「問題あり」が有意に少なく、50歳以降すべての年齢段階で「問題あり」が有意に多かった。

② 知的障害生活介護利用者の高齢化・老化と年齢（表5-2）

知的障害生活介護利用者の高齢化・老化は、「問題あり」が14%、「問題なし」が86%であった。

χ 二乗検定の結果、1%水準で有意差が見られた。それ故、知的障害生活介護利用者の高齢化・老化と年齢との間には関連性があるといえよう。有意差が認められたので、残差分析を行った。その結果、40歳未満は、「問題あり」が有意に少なく、50歳以降すべての年齢段階で「問題あり」が有意に多かった。40～49歳段階は、「問題あり」が少なかったものの有意差は見られなかった。

③ 知的障害グループホーム・ケアホーム利用者の高齢化・老化と年齢（表5-3）

知的障害グループホーム・ケアホーム利用者の高齢化・老化は、「問題あり」が17%、「問題なし」が83%であった。

χ 二乗検定の結果、1%水準で有意差が見られた。それ故、知的障害グループホーム・ケアホームの高齢化・老化と年齢との間には関連性があるといえよう。有意差が認められたので、残差分析を行った。その結果、40歳未満と40～49歳は、「問題あり」が有意に少なく、50歳以降すべての年齢段階で「問題あり」が有意に多かった。

④ 身体障害支援施設利用者の高齢化・老化と年齢（表5-4）

身体障害支援施設利用者の高齢化・老化は、「問題あり」が28%、「問題なし」が72%であった。

χ 二乗検定の結果、1%水準で有意差が見られた。それ故、身体障害支援施設利用者の高齢化・老化と年齢との間には関連性があるといえよう。有意差が認められたので、残差分析を行った。その結果、59歳以前の年齢段階では「問題あり」が有意に少なく、65歳以降すべての年齢段階で「問題あり」が有意に多かった。60～64歳段階は、「問題あり」が多かったものの有意差は見られなかった。

⑤ 精神障害グループホーム・ケアホーム利用者の高齢化・老化と年齢（表5-5）

精神障害グループホーム・ケアホーム利用者の高齢化・老化は、「問題あり」が15%、「問題なし」が85%であった。

χ 二乗検定の結果、1%水準で有意差が見られた。それ故、精神障害グループホーム・ケアホームの高齢化・老化と年齢との間には関連性があるといえよう。有意差が認められたので、残差分析を行った。その結果、59歳以前の年齢段階では「問題あり」が有意に少なく、65歳以降すべての年齢段階で「問題あり」が有意に多かった。60～64歳段階は、「問題あり」が期待値よりも多かったものの有意差は見られなかった。

2) 夜間の身体介護の状況と年齢

障害者支援施設、生活介護、グループホーム・ケアホーム、などの事業所における利用者

対する夜間の身体介護の状況と年齢との関連性をみるために、クロス表を作成し、 χ^2 二乗検定を行った。身体介護の状況は、「①一晩に2回以上の身体介護が必要」（以下「一晩に2回以上」と記述）、「②一晩に1回程度の身体介護が必要」（以下「一晩に1回程度」と記述）、「③特に夜間の身体介護の必要はない」（以下「特に必要ない」と記述）の3段階であった。年齢は、「40歳未満」「40～49歳」「50～59歳」「60～64歳」「65～69歳」「70～74歳」「75～79歳」「80歳以上」の8段階であった。 χ^2 二乗検定の結果、有意差が認められた場合には、どのセルが有意差をもたらしたのかを明らかにするために残差分析を行った。残差分析の結果については、調整済み残差の絶対値が5%の標準正規偏差値1.96以上のセルに注目することとする。

① 知的障害支援施設利用者の身体介護の状況と年齢（表6-1）

知的障害支援施設利用者の身体介護の状況は、「一晩に2回以上」と「一晩に1回程度」とが17%程度、「特に必要ない」が66%であった。

χ^2 二乗検定の結果、1%水準で有意差が見られた。それ故、知的障害支援施設利用者の身体介護の状況と年齢の間には関連性があるといえよう。有意差が認められたので、残差分析を行った。その結果、「一晩に2回以上」は40歳未満で有意に少なく、50歳以上で比較的多くなっていた。「一晩に1回程度」は、多くの年齢段階で16%前後で大きな差はなかった。「特に必要ない」40歳未満で有意に多く、50歳以降で比較的少なかった。

② 知的障害グループホーム・ケアホーム利用者の身体介護の状況と年齢（表6-2）

知的障害グループホーム・ケアホーム利用者の身体介護の状況は、「一晩に2回以上」と「一晩に1回程度」とが3%台であった。そして、「特に必要ない」が93%と多かった。

χ^2 二乗検定の結果、1%水準で有意差が見られた。それ故、知的障害グループホーム・ケアホーム利用者の身体介護の状況と年齢の間には関連性があるといえよう。有意差が認められたので、残差分析を行った。その結果、「一晩に2回以上」は80歳以上で23%と多かった。40～49歳、60～64歳段階も有意に多かったものの5%台であった。「一晩に1回程度」は40歳未満が有意に少なかったが、他の年齢段階については、有意差は見られなかった。「特に必要ない」については、40歳未満で有意に多く、60～64歳、75～79歳、80歳以上で有意に少なかった。

③ 身体障害支援施設利用者の身体介護の状況と年齢（表6-3）

身体障害支援施設利用者の身体介護の状況は、「一晩に2回以上」が67.5%と多く、「一晩に1回程度」と「特に必要ない」は15～17%であった。

χ^2 二乗検定の結果、1%水準で有意差が見られた。それ故、身体障害支援施設利用者の身体介護の状況と年齢の間には関連性があるといえよう。有意差が認められたので、残差分析を行った。その結果、「一晩に2回以上」は75～79歳で有意に多かった。また、50～59歳で有意に少なかった。しかし、50～59歳の割合は65%であり、知的障害関連の事業所と比較すると多いといえよう。「特に必要ない」は50～59歳で有意に多かった。

④ 精神障害グループホーム・ケアホーム利用者の身体介護の状況と年齢

精神障害グループホーム・ケアホーム利用者の身体介護については、全体の99%以上の人が

「特に必要ない」ということであつたので、分析を行わなかつた。

3) 夜間の見回り支援の状況と年齢

障害者支援施設、生活介護、グループホーム・ケアホームなどの事業所における利用者に対する夜間の見回り支援の状況と年齢との関連性をみるために、クロス表を作成し、 χ^2 乗検定を行った。見回り支援の状況は、「①一晩に2回以上の見回りが必要」(以下「一晩に2回以上」と記述)、「②一晩に1回程度の見回りが必要」(以下「一晩に1回程度」と記述)、「③特に夜間支援の必要はない」(以下「特に必要ない」と記述)の3段階であつた。年齢は、「40歳未満」「40～49歳」「50～59歳」「60～64歳」「65～69歳」「70～74歳」「75～79歳」「80歳以上」の8段階であつた。 χ^2 乗検定の結果、有意差が認められた場合には、どのセルが有意差をもたらしたのかを明らかにするために残差分析を行った。残差分析の結果については、調整済み残差の絶対値が5%の標準正規偏差値1.96以上のセルに注目することとする。

① 知的障害支援施設利用者の見回り支援の状況と年齢 (表7-1)

知的障害支援施設利用者の見回り支援の状況は、「一晩に2回以上」が74%と多かつた。「一晩に1回程度」が13%、「特に必要ない」も13%であつた。

χ^2 乗検定の結果、1%水準で有意差が見られた。それ故、知的障害支援施設利用者の見回り支援の状況と年齢の間には関連性があるといえよう。有意差が認められたので、残差分析を行った。その結果、40歳未満から79歳までは「一晩に2回以上」が71～76%であつた。80歳以上は85%と有意に多かつた。「一晩に1回程度」は、40歳未満が有意に少なかつた。

② 知的障害グループホーム・ケアホーム利用者の見回り支援の状況と年齢 (表7-2)

知的障害グループホーム・ケアホーム利用者の見回り支援の状況は、「一晩に2回以上」が16%、「一晩に1回程度」が24%であつた。そして、「特に必要ない」は60%と多かつた。

χ^2 乗検定の結果、1%水準で有意差が見られた。それ故、知的障害グループホーム・ケアホーム利用者の見回り支援の状況と年齢の間には関連性があるといえよう。有意差が認められたので、残差分析を行った。その結果、「一晩に2回以上」は80歳以上で43%と多かつた。「一晩に1回程度」は40歳未満が有意に少なかつた。「特に必要ない」については、40歳未満で有意に多く、70歳以上では有意に少なかつた。

③ 身体障害支援施設利用者の見回り支援の状況と年齢 (表7-3)

身体障害支援施設利用者の見回り支援の状況は、「一晩に2回以上」が91%と多く、「一晩に1回程度」は7%、「特に必要ない」は3%と少なかつた。

χ^2 乗検定の結果、1%水準で有意差が見られた。それ故、身体障害支援施設利用者の見回り支援の状況と年齢の間には関連性があるといえよう。有意差が認められたので、残差分析を行った。その結果、「一晩に2回以上」は40歳未満で有意に多かつた。「一晩に1回程度」は40歳未満では有意に少なく、40～49歳では有意に多かつた。「特に必要ない」は60～64歳で有意に多かつた。

④ 精神障害グループホーム・ケアホーム利用者の見回り支援の状況と年齢（表7-4）

精神障害グループホーム・ケアホーム利用者の見回り支援の状況は、「一晩に2回以上」が4%と少なかった。「一晩に1回程度」は9%、「特に必要ない」は87%と多かった。

χ^2 乗検定の結果、有意差は見られなかった。それ故、精神障害グループホーム・ケアホーム利用者の見回り支援の状況と年齢との間には関連性は認められないといえよう。

表5-1 高齢化・老化状況と年代のクロス表(知的障害 支援施設) p < 0.01

			年代								合計
			40歳未満	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	
老化状況	問題あり	度数	219	551	886	694	505	432	254	135	3676
		年代の%	4.7	14.0	30.1	46.1	58.0	69.2	76.7	87.1	24.5
		調整済み残差	-37.82	-17.77	7.95	20.62	23.71	26.57	22.37	18.23	
	問題なし	度数	4445	3384	2056	810	366	192	77	20	11350
		年代の%	95.3	86.0	69.9	53.9	42.0	30.8	23.3	12.9	75.5
		調整済み残差	37.82	17.77	-7.95	-20.62	-23.71	-26.57	-22.37	-18.23	
合計		度数	4664	3935	2942	1504	871	624	331	155	15026
		年代の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表5-2 高齢化・老化状況と年代のクロス表(知的障害 生活介護) p < 0.01

			年代								合計
			40歳未満	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	
老化状況	問題あり	度数	246	174	210	117	66	54	28	16	911
		年代の%	6.1	13.3	35.2	44.0	57.4	78.3	82.4	76.2	14.2
		調整済み残差	-23.89	-1.01	15.45	14.22	13.39	15.33	11.42	8.15	
	問題なし	度数	3765	1132	386	149	49	15	6	5	5507
		年代の%	93.9	86.7	64.8	56.0	42.6	21.7	17.6	23.8	85.8
		調整済み残差	23.89	1.01	-15.45	-14.22	-13.39	-15.33	-11.42	-8.15	
合計		度数	4011	1306	596	266	115	69	34	21	6418
		年代の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

2セルは期待度数が5未満

表5-3 高齢化・老化状況と年代のクロス表(知的障害 GHCH) p < 0.01

			年代								合計
			40歳未満	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	
老化状況	問題あり	度数	42	158	268	300	144	110	40	15	1077
		年代の%	1.8	9.9	20.6	41.0	46.3	62.9	71.4	75.0	16.6
		調整済み残差	-23.68	-8.31	4.36	18.86	14.43	16.68	11.08	7.03	
	問題なし	度数	2256	1441	1032	431	167	65	16	5	5413
		年代の%	98.2	90.1	79.4	59.0	53.7	37.1	28.6	25.0	83.4
		調整済み残差	23.68	8.31	-4.36	-18.86	-14.43	-16.68	-11.08	-7.03	
合計		度数	2298	1599	1300	731	311	175	56	20	6490
		年代の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

1セルは期待度数が5未満

表5-4 高齢化・老化状況と年代のクロス表(身体障害 支援施設) p < 0.01

			年代								合計
			40歳未満	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	
老化状況	問題あり	度数	155	188	353	384	363	284	154	67	1948
		年代の%	18.6	17.6	19.4	29.4	37.6	46.1	56.2	55.8	27.8
		調整済み残差	-6.31	-8.07	-9.33	1.44	7.27	10.59	10.69	6.90	
	問題なし	度数	677	878	1466	920	603	332	120	53	5049
		年代の%	81.4	82.4	80.6	70.6	62.4	53.9	43.8	44.2	72.2
		調整済み残差	6.31	8.07	9.33	-1.44	-7.27	-10.59	-10.69	-6.90	
合計		度数	832	1066	1819	1304	966	616	274	120	6997
		年代の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表5-5 高齢化・老化状況と年代のクロス表(精神障害 GHCH) p < 0.01

			年代								合計
			40歳未満	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳	80歳以上	
老化状況	問題あり	度数	2	8	27	50	49	35	17	10	198
		年代の%	1.2	3.7	7.2	17.7	27.5	39.8	54.8	71.4	14.7
		調整済み残差	-5.14	-5.03	-4.80	1.60	5.18	6.86	6.38	6.02	
	問題なし	度数	159	210	346	232	129	53	14	4	1147
		年代の%	98.8	96.3	92.8	82.3	72.5	60.2	45.2	28.6	85.3
		調整済み残差	5.14	5.03	4.80	-1.60	-5.18	-6.86	-6.38	-6.02	
合計		度数	161	218	373	282	178	88	31	14	1345
		年代の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

2セルは期待度数が5未満

表6-1 身体介護の状況と年代のクロス表 (知的障害 支援施設) p < 0.01

			年代							合計	
			40歳未満	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳		80歳以上
身体介護の状況	一晩に2回以上の身体介護	度数	149	251	321	200	132	103	65	56	1277
		年代の%	9.9	16.2	19.8	18.8	19.9	20.9	22.0	38.9	17.4
		調整済み残差	-8.57	-1.47	2.89	1.31	1.75	2.11	2.10	6.86	
	一晩に1回程度の身体介護	度数	222	265	276	167	101	91	68	21	1211
		年代の%	14.8	17.1	17.0	15.7	15.2	18.5	23.0	14.6	16.5
		調整済み残差	-2.01	0.65	0.65	-0.75	-0.95	1.20	3.05	-0.63	
特に必要はない	度数	1129	1037	1022	695	431	299	163	67	4843	
	年代の%	75.3	66.8	63.1	65.4	64.9	60.6	55.1	46.5	66.1	
	調整済み残差	8.44	0.67	-2.83	-0.46	-0.66	-2.63	-4.08	-5.00		
合計		度数	1500	1553	1619	1062	664	493	296	144	7331
		年代の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表6-2 身体介護の状況と年代のクロス表 (知的障害 GHCH) p < 0.01

			年代							合計	
			40歳未満	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳		80歳以上
身体介護の状況	一晩に2回以上の身体介護	度数	22	33	13	24	1	5	4	3	105
		年代の%	3.1	5.2	2.2	5.7	0.5	4.3	9.3	23.1	3.8
		調整済み残差	-1.26	2.01	-2.34	2.17	-2.54	0.29	1.88	3.62	
	一晩に1回程度の身体介護	度数	14	16	26	17	10	7	3	0	93
		年代の%	1.9	2.5	4.4	4.0	5.1	6.1	7.0	0.0	3.4
		調整済み残差	-2.50	-1.41	1.51	0.80	1.33	1.62	1.30	-0.68	
特に必要はない	度数	682	588	552	379	187	103	36	10	2537	
	年代の%	95.0	92.3	93.4	90.2	94.4	89.6	83.7	76.9	92.8	
	調整済み残差	2.68	-0.50	0.68	-2.17	0.95	-1.35	-2.31	-2.21		
合計		度数	718	637	591	420	198	115	43	13	2735
		年代の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

6セルは期待度数が5未満

表6-3 身体介護の状況と年代のクロス表 (身体障害 支援施設) p < 0.01

			年代							合計	
			40歳未満	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳		80歳以上
身体介護の状況	一晩に2回以上の身体介護	度数	382	496	862	709	543	386	188	83	3649
		年代の%	68.8	66.6	64.8	66.3	69.0	68.6	76.4	75.5	67.5
		調整済み残差	0.70	-0.59	-2.42	-0.93	0.96	0.56	3.05	1.80	
	一晩に1回程度の身体介護	度数	88	124	195	166	113	98	32	12	828
		年代の%	15.9	16.6	14.7	15.5	14.4	17.4	13.0	10.9	15.3
		調整済み残差	0.37	1.08	-0.77	0.21	-0.81	1.45	-1.03	-1.30	
特に必要はない	度数	85	125	273	194	131	79	26	15	928	
	年代の%	15.3	16.8	20.5	18.1	16.6	14.0	10.6	13.6	17.2	
	調整済み残差	-1.22	-0.30	3.74	0.95	-0.42	-2.09	-2.81	-0.99		
合計		度数	555	745	1330	1069	787	563	246	110	5405
		年代の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表7-1 見回り支援の状況と年代のクロス表 (知的障害 支援施設) p < 0.01

			年代							合計	
			40歳未満	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳		80歳以上
見回り支援	一晩に2回以上の見回り	度数	1217	1269	1268	787	487	408	241	127	5804
		年代の%	75.3	74.6	74.2	71.4	72.4	76.3	76.5	85.2	74.4
		調整済み残差	0.90	0.23	-0.26	-2.44	-1.26	1.03	0.88	3.06	
	一晩に1回程度の見回り	度数	163	235	221	165	97	81	45	15	1022
		年代の%	10.1	13.8	12.9	15.0	14.4	15.1	14.3	10.1	13.1
		調整済み残差	-4.04	0.99	-0.24	1.99	1.06	1.45	0.64	-1.11	
	特に必要はない	度数	237	197	221	150	89	46	29	7	976
		年代の%	14.7	11.6	12.9	13.6	13.2	8.6	9.2	4.7	12.5
		調整済み残差	2.93	-1.31	0.59	1.19	0.59	-2.83	-1.81	-2.91	
合計		度数	1617	1701	1710	1102	673	535	315	149	7802
		年代の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表7-2 見回り支援の状況と年代のクロス表 (知的障害 GHCH) p < 0.01

			年代							合計	
			40歳未満	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳		80歳以上
見回り支援	一晩に2回以上の見回り	度数	114	100	108	75	26	21	11	6	461
		年代の%	15.2	15.6	17.8	17.5	12.9	16.9	23.9	42.9	16.4
		調整済み残差	-1.04	-0.62	1.05	0.68	-1.38	0.16	1.39	2.68	
	一晩に1回程度の見回り	度数	155	153	142	112	48	45	15	4	674
		年代の%	20.7	23.9	23.4	26.2	23.9	36.3	32.6	28.6	24.0
		調整済み残差	-2.48	-0.07	-0.38	1.15	-0.03	3.28	1.38	0.40	
特に必要はない	度数	481	388	357	241	127	58	20	4	1676	
	年代の%	64.1	60.5	58.8	56.3	63.2	46.8	43.5	28.6	59.6	
	調整済み残差	2.94	0.53	-0.46	-1.52	1.07	-2.98	-2.25	-2.37		
合計		度数	750	641	607	428	201	124	46	14	2811
		年代の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

2セルは期待度数が5未満

表7-3 見回り支援の状況と年代のクロス表(身体障害 支援施設)

p < 0.05

			年代							合計	
			40歳未満	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳		80歳以上
見回り支援	一晩に2回以上の見回り	度数	529	666	1214	968	716	503	224	103	4923
		年代の%	93.6	89.5	90.3	89.1	90.3	90.1	92.6	94.5	90.5
		調整済み残差	2.71	-0.95	-0.20	-1.77	-0.18	-0.27	1.14	1.45	
	一晩に1回程度の見回り	度数	25	64	93	72	50	39	12	6	361
		年代の%	4.42	8.60	6.92	6.62	6.31	6.99	4.96	5.50	6.63
		調整済み残差	-2.23	2.32	0.49	-0.01	-0.40	0.36	-1.07	-0.48	
	特に必要はない	度数	11	14	37	47	27	16	6	0	158
		年代の%	1.9	1.9	2.8	4.3	3.4	2.9	2.5	0.0	2.9
		調整済み残差	-1.43	-1.79	-0.38	3.12	0.91	-0.05	-0.40	-1.82	
合計		度数	565	744	1344	1087	793	558	242	109	5442
		年代の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

1セルは期待度数が5未満

表7-4 見回り支援の状況と年代のクロス表(精神 GHCH)

n.s.

			年代							合計	
			40歳未満	40-49歳	50-59歳	60-64歳	65-69歳	70-74歳	75-79歳		80歳以上
見回り支援	一晩に2回以上の見回り	度数	3	3	6	9	2	0	4	1	28
		年代の%	4.5	3.3	3.3	6.0	1.9	0.0	17.4	6.7	4.1
		調整済み残差									
	一晩に1回程度の見回り	度数	6	5	15	13	10	5	2	3	59
		年代の%	9.1	5.5	8.3	8.7	9.5	9.4	8.7	20.0	8.7
		調整済み残差									
	特に必要はない	度数	57	83	159	127	93	48	17	11	595
		年代の%	86.4	91.2	88.3	85.2	88.6	90.6	73.9	73.3	87.2
		調整済み残差									
合計		度数	66	91	180	149	105	53	23	15	682
		年代の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

9セルは期待度数が5未満

(4) 年齢区分と事業種別 (表8)

年齢区分と事業種別についてみる。

知的障害支援施設は、40歳未満が32%、40～49歳が26%、50～59歳が20%と多かった。59歳までの年齢の者で3/4を占めていた。

知的障害生活介護は、40歳未満が66%、40～49歳が18%であり、50歳未満の者が84%ということになる。

知的障害グループホーム・ケアホームは、知的障害支援施設と似た年齢分布であった。すなわち、40歳未満が35%、40～49歳が25%、50～59歳が21%と多かった。59歳までの年齢の者で80%を超えていた。

身体障害支援施設は、40歳未満が10%、40～49歳が16%、50～59歳が27%、60～64歳が20%、65～69歳が14%であった。

精神障害グループホーム・ケアホームは、身体障害支援施設と似た年齢分布であった。40歳未満が13%、40～49歳が16%、50～59歳が29%、60～64歳が20%、65～69歳が14%であった。

表8 年代と事業種別

p < 0.01

		事業種別					合計	
		知的支援施設	知的生活介護	知的GHCH	身体支援施設	精神GHCH		
年代	40歳未満	度数	5411	5669	2540	942	177	14739
		事業種別の %	31.5	66.4	35.0	10.0	12.5	33.6
		調整済み残差	-7.61	71.49	2.62	-54.85	-17.10	
	40-49歳	度数	4456	1537	1778	1461	224	9456
		事業種別の %	25.9	18.0	24.5	15.5	15.8	21.6
		調整済み残差	17.81	-8.91	6.56	-16.21	-5.34	
	50-59歳	度数	3443	730	1506	2533	404	8616
		事業種別の %	20.0	8.6	20.7	26.9	28.6	19.7
		調整済み残差	1.60	-28.76	2.50	19.86	8.55	
	60-64歳	度数	1685	338	826	1843	287	4979
		事業種別の %	9.8	4.0	11.4	19.5	20.3	11.4
		調整済み残差	-8.23	-24.00	0.02	28.26	10.75	
	65-69歳	度数	980	126	349	1300	192	2947
		事業種別の %	5.7	1.5	4.8	13.8	13.6	6.7
		調整済み残差	-6.85	-21.57	-7.16	30.91	10.45	
	70-74歳	度数	672	77	188	851	87	1875
		事業種別の %	3.9	.9	2.6	9.0	6.1	4.3
		調整済み残差	-3.05	-17.17	-7.80	25.71	3.53	
	75-79歳	度数	366	34	59	355	30	844
		事業種別の %	2.1	.4	.8	3.8	2.1	1.9
		調整済み残差	2.50	-11.44	-7.56	14.67	0.54	
	80歳以上	度数	168	21	20	145	14	368
		事業種別の %	1.0	.2	.3	1.5	1.0	.8
		調整済み残差	2.54	-6.70	-5.77	8.38	0.63	
合計		度数	17181	8532	7266	9430	1415	43824
		事業種別の %	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

0セル(.0%)は期待度数が5未満です。

(5) 障害程度区分と事業種別 (表9)

障害程度区分と障害者支援施設、生活介護、グループホーム・ケアホームなどの事業所における利用者との関連性をみるために、クロス表を作成し、 χ^2 二乗検定を行った。障害程度区分は、非該当、区分1～区分6であった。事業所利用者は、知的障害支援施設、知的障害生活介護、知的障害グループホーム・ケアホーム、身体障害支援施設、精神障害グループホーム・ケアホームであった。

知的障害支援施設、知的障害生活介護、身体障害支援施設の利用者は非該当は1%以下であった。知的障害グループホーム・ケアホーム利用者の非該当は5%、精神障害グループホーム・ケアホーム利用者は39%であった。

χ^2 二乗検定の結果、1%水準で有意差が見られた。それ故、障害程度区分と事業所との間には関連性があるといえよう。有意差が認められたので、残差分析を行った。残差分析の結果も考慮して以下、見ていく。

知的障害支援施設の利用者は非該当～区分3の利用者は少なかった。区分4～区分6の合計は89%で、大部分を占めていた。

知的障害生活介護の利用者は非該当～区分2の利用者は少なかった。区分4～区分6の合計は80%であった。

知的障害グループホーム・ケアホームの利用者は、非該当、区分1は知的障害支援施設、知的障害生活介護、身体障害支援施設と比べると多いものの、いずれも10%未満であった。区分2～区分4の合計が77%であった。区分5～区分6は少なかった。

身体障害支援施設の利用者は非該当から区分4までは少なく、区分5と区分6の合計が83%

であった。区分6はとりわけ多かった。

精神障害グループホーム・ケアホームの利用者は非該当から区分2までの合計が83%と多かった。区分4～区分6は少なく、いずれも3%未満であった。

表9 障害程度区分と事業種別

p < 0.01

			事業所別					合計	
			知的支援施設	知的生活介護	知的GHCH	身体支援施設	精神GHCH		
障害程度	非該当	度数	52	3	323	0	463	841	
		事業所別の%	0.3	0.0	4.5	0.0	38.8	1.9	
		調整済み残差	-19.99	-14.19	17.44	-15.43	93.71		
	区分1	度数	47	7	537	6	176	773	
		事業所別の%	0.3	0.1	7.6	0.1	14.8	1.8	
		調整済み残差	-19.21	-13.20	40.26	-14.26	34.36		
	区分2	度数	289	163	1968	97	354	2871	
		事業所別の%	1.7	1.9	27.7	1.0	29.7	6.6	
		調整済み残差	-33.45	-19.43	78.19	-24.68	32.51		
	区分3	度数	1560	1487	2181	546	166	5940	
		事業所別の%	9.1	17.5	30.7	5.8	13.9	13.7	
		調整済み残差	-22.57	11.40	45.62	-25.23	0.24		
	区分4	度数	4050	2381	1330	982	27	8770	
		事業所別の%	23.6	28.0	18.7	10.4	2.3	20.2	
		調整済み残差	14.18	19.99	-3.41	-26.79	-15.65		
	区分5	度数	5340	2238	524	2258	6	10366	
		事業所別の%	31.1	26.3	7.4	23.9	0.5	23.9	
		調整済み残差	28.52	5.90	-35.69	0.13	-19.20		
	区分6	度数	5828	2217	239	5541	0	13825	
		事業所別の%	34.0	26.1	3.4	58.8	0.0	31.9	
		調整済み残差	7.54	-12.73	-56.36	63.36	-23.94		
	合計		度数	17166	8496	7102	9430	1192	43386
			事業所別の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

0セル(0%)は期待度数が5未満です。

(6) 健康の状況と事業種別 (表10)

健康状況と各事業所の利用者との関連性をみるために、クロス表を作成し、 χ^2 二乗検定を行ったところ、有意差が見られた。それ故、健康状況と事業所との間には関連性があるといえよう。

全体的な特徴は、「元気」に関して、知的障害支援施設は39%、と身体障害支援施設32%と少なかった。知的障害生活介護は46%、知的障害グループホーム・ケアホームは43%、精神障害グループホーム・ケアホームは50%と多かった。他方、「やや病弱」および「病気がち」については、知的障害支援施設と身体障害支援施設において多く、知的障害生活介護、知的障害グループホーム・ケアホーム、精神障害グループホーム・ケアホームにおいて少なかった。

表10 健康の状況と事業種別

p < 0.01

			事業種別					合計	
			知的支援施設	知的生活介護	知的GHCH	身体支援施設	精神GHCH		
健康の状況	元気	度数	6426	3664	2996	2770	687	16543	
		事業種別の%	39.1	46.4	42.6	31.7	49.9	39.9	
		調整済み残差	-2.72	13.15	5.17	-17.55	7.73		
	ときに風邪、 下痢程度	度数	6968	3459	2915	3522	528	17392	
		事業種別の%	42.4	43.8	41.5	40.3	38.3	41.9	
		調整済み残差	1.48	3.76	-0.84	-3.43	-2.73		
	やや病弱	度数	1914	600	721	1303	98	4636	
		事業種別の%	11.6	7.6	10.3	14.9	7.1	11.2	
		調整済み残差	2.42	-11.21	-2.68	12.49	-4.86		
	病気がち	度数	1143	176	398	1143	64	2924	
		事業種別の%	6.9	2.2	5.7	13.1	4.6	7.0	
		調整済み残差	-0.64	-18.60	-4.98	24.81	-3.54		
	合計		度数	16451	7899	7030	8738	1377	41495
			事業種別の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

0セル(0%)は期待度数が5未満です。

(7) 支援の程度と事業種別

① 日常生活面の支援程度と事業種別 (表 11 - 1)

日常生活面の支援程度と各事業所の利用者との関連性をみるために、クロス表を作成し、 χ 二乗検定を行ったところ、有意差が見られた。それ故、日常生活面の支援程度と事業所との間には関連性があるといえよう。

知的障害支援施設は、支援程度が比較的重い 2 級が多く、3 級も多かった。支援程度が軽い 4 級、5 級は少なかった。

知的障害生活介護は、1 級から 5 級にわたって、全体の平均値と近かった。

知的障害グループホーム・ケアホームは、1 級、2 級が少なく、3～5 級が多かった。

身体障害支援施設は、知的障害グループホーム・ケアホームとは逆に 1 級、2 級が多く、3～5 級が少なかった。

精神障害グループホーム・ケアホームは、1 級、2 級は少なかった。支援程度が比較的軽い 4 級は 55% と最も多かった。

② 行動面の支援程度と事業種別 (表 11 - 2)

行動面の支援程度と各事業所の利用者との関連性をみるために、クロス表を作成し、 χ 二乗検定を行ったところ、有意差が見られた。それ故、行動面の支援程度と事業所との間には関連性があるといえよう。

知的障害支援施設は、支援程度が重い 1 級、2 級が多く、3 級も多かった。支援程度が軽い 4 級、5 級は少なかった。

知的障害生活介護は、1 級、2 級が多く、3 級、5 級が比較的少なかった。

知的障害グループホーム・ケアホームは、1 級、2 級が少なく、3～5 級が多かった。

身体障害支援施設は、知的障害グループホーム・ケアホームとは逆に 1～3 級が少なかった。支援の程度が最も軽い 5 級は多かった。

精神障害グループホーム・ケアホームは、1 級、2 級は少なかった。支援程度が軽い 4 級、5 級は多かった。

③ 保健面の支援程度と事業種別 (表 11 - 3)

保健面の支援程度と各事業所の利用者との関連性をみるために、クロス表を作成し、 χ 二乗検定を行ったところ、有意差が見られた。それ故、保健面の支援程度と事業所との間には関連性があるといえよう。

知的障害支援施設は、重い 1～3 級が多かった。支援程度が軽い 4 級、5 級は少なかった。

知的障害生活介護は、1～3 級が少なかった。5 級が比較的多かった。

知的障害グループホーム・ケアホームは、1～3 級が少なかった。4 級、5 級は多かった。

身体障害支援施設は、支援の程度が重い 1 級、2 級が多かった。3～5 級は少なかった。

精神障害グループホーム・ケアホームは、1～3 級は少なかった。支援程度が軽い 4 級、5 級は多かった。

表11-1 日常生活の支援程度と事業種別

p < 0.01

			事業所別					合計
			知的支援施設	知的生活介護	知的GHCH	身体支援施設	精神GHCH	
支援程度	1級	度数	2591	1223	112	2398	6	6330
		事業所別の%	15.3	15.2	1.5	34.2	0.9	15.8
		調整済み残差	-2.62	-1.85	-36.88	46.48	-10.82	
	2級	度数	5609	2066	883	2168	88	10814
		事業所別の%	33.1	25.6	12.2	31.0	12.8	27.0
		調整済み残差	23.25	-3.26	-31.58	8.12	-8.45	
	3級	度数	5684	2518	2492	1426	188	12308
		事業所別の%	33.5	31.2	34.3	20.4	27.4	30.8
		調整済み残差	10.13	0.93	7.20	-20.79	-1.93	
	4級	度数	2494	1741	2656	634	378	7903
		事業所別の%	14.7	21.6	36.6	9.1	55.1	19.8
		調整済み残差	-21.83	4.58	39.75	-24.78	23.45	
	5級	度数	590	522	1122	378	26	2638
		事業所別の%	3.5	6.5	15.4	5.4	3.8	6.6
		調整済み残差	-21.57	-0.52	33.59	-4.45	-2.99	
合計		度数	16968	8070	7265	7004	686	39993
		事業所別の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

0セル(0%)は期待度数が5未満です。

表11-2 行動面の支援程度と事業種別

p < 0.01

			事業所別					合計
			知的支援施設	知的生活介護	知的GHCH	身体支援施設	精神GHCH	
支援程度	1級	度数	2305	1008	109	550	3	3975
		事業所別の%	13.6	12.6	1.5	7.9	0.3	9.9
		調整済み残差	21.23	9.03	-26.41	-6.22	-10.20	
	2級	度数	5111	1858	720	991	73	8753
		事業所別の%	30.1	23.2	9.9	14.2	7.4	21.8
		調整済み残差	34.67	3.43	-26.97	-16.93	-11.06	
	3級	度数	6352	2629	2871	1583	289	13724
		事業所別の%	37.4	32.8	39.6	22.6	29.3	34.1
		調整済み残差	11.93	-2.80	10.86	-22.29	-3.23	
	4級	度数	2562	1602	2410	1397	324	8295
		事業所別の%	15.1	20.0	33.2	20.0	32.9	20.6
		調整済み残差	-23.42	-1.58	29.32	-1.48	9.62	
	5級	度数	644	919	1141	2473	297	5474
		事業所別の%	3.8	11.5	15.7	35.4	30.1	13.6
		調整済み残差	-49.06	-6.26	5.83	58.36	15.31	
合計		度数	16974	8016	7251	6994	986	40221
		事業所別の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

0セル(0%)は期待度数が5未満です。

表11-3 保健面の支援の程度と事業種別

p < 0.01

			事業所別					合計
			知的支援施設	知的生活介護	知的GHCH	身体支援施設	精神GHCH	
支援の程度	1級	度数	1006	291	32	663	5	1997
		事業所別の%	6.0	3.6	0.4	9.5	0.5	5.0
		調整済み残差	7.90	-6.31	-19.66	19.00	-6.53	
	2級	度数	2913	991	306	1320	45	5575
		事業所別の%	17.3	12.3	4.2	18.8	4.6	13.9
		調整済み残差	16.92	-4.64	-26.38	13.16	-8.56	
	3級	度数	6528	2307	1696	2160	244	12935
		事業所別の%	38.8	28.6	23.3	30.8	24.8	32.2
		調整済み残差	24.06	-7.76	-17.96	-2.79	-5.06	
	4級	度数	5319	3131	4010	2471	447	15378
		事業所別の%	31.6	38.8	55.1	35.2	45.4	38.3
		調整済み残差	-23.32	1.08	32.61	-5.81	4.63	
	5級	度数	1050	1346	1232	400	244	4272
		事業所別の%	6.2	16.7	16.9	5.7	24.8	10.6
		調整済み残差	-24.24	19.71	19.24	-14.76	14.57	
合計		度数	16816	8066	7276	7014	985	40157
		事業所別の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

0セル(0%)は期待度数が5未満です。

(8) 高齢化・老化問題と事業種別 (表 12)

利用者の高齢化・老化問題と事業種別との関連性を見るためにクロス表を作成し、 χ^2 乗検定を行ったところ、有意差が見られた。それ故、利用者の高齢化・老化と事業種別との間には関連性があるといえよう。

高齢化・老化問題において、「問題となっている」は、身体障害支援施設で 28%、知的障害支援施設で 25%と多かった。そして、知的障害支援施設、知的障害グループホーム・ケアホーム、精神障害グループホーム・ケアホームは 15%前後と少なかった。

表12 高齢化問題と事業種別

p < 0.01

			事業種別					合計
			知的支援施設	知的生活介護	知的GHCH	身体支援施設	精神HCH	
高齢化	問題となっている	度数	3676	911	1077	1948	198	7810
		事業種別の%	24.5	14.2	16.6	27.8	14.7	21.5
		調整済み残差	11.44	-15.76	-10.67	14.30	-6.19	
	問題となっていない	度数	11350	5507	5413	5049	1147	28466
		事業種別の%	75.5	85.8	83.4	72.2	85.3	78.5
		調整済み残差	-11.44	15.76	10.67	-14.30	6.19	
合計		度数	15026	6418	6490	6997	1345	36276
		事業種別の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

0セル(0%)は期待度数が5未満です。

(9) 毎日の行動範囲と事業種別 (表 13)

毎日の行動範囲と事業種別との関連性を見るためにクロス表を作成し、 χ^2 乗検定を行ったところ、有意差が見られた。それ故、毎日の行動範囲と事業種別との間には関連性があるといえよう。

知的障害支援施設は、行動範囲は「生活寮の周辺など」と「ホーム・家庭内」が多かった。そして、「行動は活発」と「(ほとんど)寝たきり」が少なかった。

知的障害生活介護は、「行動は活発」と「生活寮の周辺など」が比較的多かった。「(ほとんど)寝たきり」は少なかった。

知的障害グループホーム・ケアホームは、「行動は活発」と「生活寮の周辺など」が明らかに多かった。他方、「ホーム・家庭内」「居室中心」「(ほとんど)寝たきり」は明らかに少なかった。

身体障害支援施設は、「行動は活発」と「生活寮の周辺など」は少なかった。「居室中心」が比較的多く、「(ほとんど)寝たきり」は 29%と他の事業種と比べて明らかに多かった。

精神障害グループホーム・ケアホームは、知的障害グループホーム・ケアホームと同様、「行動は活発」と「生活寮の周辺など」が明らかに多かった。「ホーム・家庭内」「居室中心」「(ほとんど)寝たきり」は明らかに少なかった。

表13 毎日の行動の範囲と事業種別

p < 0.01

		事業種別					合計	
		知的支援施設	知的生活介護	知的GHCH	身体支援施設	精神GHCH		
行動の範囲	行動は活発	度数	152	94	197	76	42	561
		事業種別の%	5.3	13.8	23.6	4.7	28.2	9.2
		調整済み残差	-9.71	4.50	15.55	-7.19	8.16	
生活寮の周辺など	生活寮の周辺など	度数	1102	286	446	313	74	2221
		事業種別の%	38.6	42.1	53.3	19.4	49.7	36.2
		調整済み残差	3.59	3.39	11.08	-16.34	3.46	
ホーム・家庭内	ホーム・家庭内	度数	1025	197	139	475	22	1858
		事業種別の%	35.9	29.0	16.6	29.5	14.8	30.3
		調整済み残差	8.88	-0.78	-9.26	-0.83	-4.18	
居室中心	居室中心	度数	382	76	50	273	10	791
		事業種別の%	13.4	11.2	6.0	16.9	6.7	12.9
		調整済み残差	1.03	-1.41	-6.42	5.64	-2.28	
(ほとんど)寝たきり	(ほとんど)寝たきり	度数	195	26	4	474	1	700
		事業種別の%	6.8	3.8	0.5	29.4	0.7	11.4
		調整済み残差	-10.55	-6.59	-10.70	26.47	-4.18	
合計		度数	2856	679	836	1611	149	6131
		事業種別の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

0セル(.0%)は期待度数が5未満です。

(10) 日常生活動作の状況と事業種別

日常生活動作の状況と事業種別との関連性を見るために、各動作ごとにクロス表を作成し、 χ^2 乗検定を行ったところ、全ての動作で有意差が見られた。それ故、日常生活動作の状況と事業種別との間には関連性があるといえよう。各動作についての評価は、「自立」「見守り又は注意が必要」(以下、「見守り注意」と記述)、「一部介助」「全介助」の4段階であった。以下、検定結果に基づきながら各動作と事業種別との関連性について述べる。

① 寝返りと事業種別 (表 14 - 1)

寝返りについては、精神障害グループホーム・ケアホームでは、ほぼ全員が自立であったので、分析対象から除外した。

知的障害支援施設は、寝返りの自立は73%と多かった。全介助は7%と少なかった。

知的障害生活介護は、自立が57%と知的障害グループホーム・ケアホームや知的障害支援施設に比べて少なかった。「見守り注意」は21%であるが、他の事業種と比べると多かった。「全介助」は、身体障害支援施設に比べると少ないものの10%であった。

知的障害グループホーム・ケアホームは、自立が95%と最も多かった。「見守り注意」は4%で、「一部介助」と「全介助」は明らかに少なかった。

身体障害支援施設は、自立が26%と他の事業種と比べると少なかった。逆に、「全介助」は54%ときわめて多かった。

② 座位保持と事業種別 (表 14 - 2)

知的障害支援施設は、座位保持の「自立」は63%と多かった。「見守り注意」も20%で比較的多かった。全介助は7%と少なかった。

知的障害生活介護は、「自立」が57%であった。「見守り注意」も22%で比較的多かった。「全介助」は9%と少なかった。

知的障害グループホーム・ケアホームは、「自立」が86%と多かった。「見守り注意」「一部介助」

「全介助」は知的障害支援施設、知的障害生活介護、身体障害支援施設に比べると少なかった。

身体障害支援施設は、「自立」が22%と他の事業種と比べると少なかった。逆に、「全介助」は49%と明らかに多かった。

精神障害グループホーム・ケアホームは、「自立」が94%で他の事業種と比べて最も多かった。「見守り注意」が5.5%であった。

③ 移動と事業種別 (表 14 - 3)

知的障害支援施設は、移動の「自立」は21%と少なかった。「見守り注意」は30%で、「一部介助」も27%で比較的多かった。「全介助」は22%であったが、知的障害生活介護、知的障害グループホーム・ケアホーム、精神障害グループホーム・ケアホームと比べると多かった。

知的障害生活介護は、「自立」が19%と少なかった。「見守り注意」40%、「一部介助」37%で他の事業種と比較すると最も多かった。全介助は4%と少なかった。

知的障害グループホーム・ケアホームは、「自立」が49%と多かった。「見守り注意」も33%と多かった。「一部介助」「全介助」は知的障害支援施設、知的障害生活介護、身体障害支援施設に比べると少なかった。

身体障害支援施設は、自立が22%と知的障害グループホーム・ケアホームや精神障害グループホーム・ケアホームと比べると少なかった。「見守り注意」も13%と他の事業種と比べて最も少なかった。逆に、「全介助」は46%と明らかに多かった。

精神障害グループホーム・ケアホームは、自立が74%で他の事業種と比べて最も多かった。「見守り注意」が20%であった。

④ 食事と事業種別 (表 14 - 4)

知的障害支援施設は、食事の「自立」は19%と少なかった。「見守り注意」は35%で、「一部介助」も32%で比較的多かった。「全介助」は14%であったが、知的障害グループホーム・ケアホーム、精神障害グループホーム・ケアホームと比べると多かった。

知的障害生活介護は、「自立」が20%と少なかった。「見守り注意」が36%と比較的多かった。

知的障害グループホーム・ケアホームは、「自立」が52%と多かった。「見守り注意」も38%と多かった。「一部介助」「全介助」は知的障害支援施設、知的障害生活介護、身体障害支援施設に比べると少なかった。

身体障害支援施設は、「自立」が19%と知的障害グループホーム・ケアホームや精神障害グループホーム・ケアホームと比べると少なかった。「見守り注意」も13%と他の事業種と比べて最も少なかった。逆に、「全介助」は44%と明らかに多かった。

精神障害グループホーム・ケアホームは、「自立」が78%で他の事業種と比べて最も多かった。「見守り注意」が15%であった。

⑤ 排泄と事業種別 (表 14 - 5)

知的障害支援施設は、排泄の「自立」は18%と少なかった。「見守り注意」は23%で、「一部介助」も34%で比較的多かった。「全介助」は25%であったが、知的障害グループホーム・ケアホーム、精神障害グループホーム・ケアホームと比べると20%以上多かった。

知的障害生活介護は、自立が18%と少なかった。「見守り注意」が27%、「一部介助」が32%と比較的多かった。「全介助」は24%であったが、知的障害グループホーム・ケアホーム、精神障害グループホーム・ケアホームと比べると20%以上多かった。

知的障害グループホーム・ケアホームは、自立が59%と多かった。「見守り注意」も24%と多かった。「一部介助」「全介助」は知的障害支援施設、知的障害生活介護、身体障害支援施設に比べると少なかった。

身体障害支援施設は、自立が9%、「見守り注意」も4%と他の事業種と比べて最も少なかった。逆に「全介助」は67%と他の事業種と比べて最も多かった。

精神障害グループホーム・ケアホームは、「自立」が85%で他の事業種と比べて最も多かった。「見守り注意」が10%であった。

⑥ 入浴と事業種別（表 14 - 6）

知的障害支援施設は、入浴の「自立」は5%と少なかった。一部介助が33%で事業種と比べて最も多かった。「全介助」は45%で、身体障害支援施設の81%と比べると少ないものの、知的障害グループホーム・ケアホーム、精神障害グループホーム・ケアホームと比べると30%以上多かった。

知的障害生活介護は、「自立」が11%と少なかった。「見守り注意」が20%と比較的多かった。「全介助」は40%であったが、知的障害グループホーム・ケアホーム、精神障害グループホーム・ケアホームと比べると30%以上多かった。

知的障害グループホーム・ケアホームは、「自立」が42%と多かった。「見守り注意」も24%と多かった。「全介助」は7%で、知的障害支援施設、知的障害生活介護、身体障害支援施設に比べると少なかった。

身体障害支援施設は「自立」が2%、「見守り注意」が1%と他の事業種と比べて最も少なかった。「全介助」は81%と他の事業種と比べて最も多かった。

精神障害グループホーム・ケアホームは、「自立」が74%で他の事業種と比べて最も多かった。「見守り注意」が16%であった。「一部介助」「全介助」は他の事業種と比べて最も少なかった。

⑦ 整容と事業種別（表 14 - 7）

知的障害支援施設は、整容の「自立」は6%と他の事業種と比べて最も少なかった。「一部介助」も15%と少なかった。「一部介助」は36%で他の事業種と比べて最も多かった。「全介助」は43%で、身体障害支援施設の65%と比べると少ないものの、知的障害グループホーム・ケアホーム、精神障害グループホーム・ケアホームと比べると35%以上多かった。

知的障害生活介護は、「自立」が7%と少なかった。「見守り注意」が19%と比較的多かった。「全介助」は42%であったが、知的障害グループホーム・ケアホーム、精神障害グループホーム・ケアホームと比べると35%以上多かった。

知的障害グループホーム・ケアホームは、「自立」が33%と多かった。「見守り注意」は36%で他の事業種と比べて最も多かった。「一部介助」も比較的少なかった。「全介助」は4%で、知的障害支援施設、知的障害生活介護、身体障害支援施設に比べると35%以上少なかった。

身体障害支援施設は、「自立」が10%と少なかった。「見守り注意」が4%と他の事業種と比

べて最も少なかった。「全介助」は65%と他の事業種と比べて最も多かった。

精神障害グループホーム・ケアホームは、自立が72%で他の事業種と比べて最も多かった。「見守り注意」が23%であった。「一部介助」「全介助」は他の事業種と比べて最も少なかった。

⑧ 着衣と事業種別 (表 14 - 8)

知的障害支援施設は、着衣の自立は14%と少なかった。「見守り注意」が25%多く、「一部介助」は32%と他の事業種と比べて最も多かった。「全介助」は29%で、知的障害グループホーム・ケアホーム、精神障害グループホーム・ケアホームと比べると多かった。

知的障害生活介護は、「自立」が14%と少なかった。「見守り注意」が27%と他の事業種と比べて最も多かった。「全介助」は30%であったが、知的障害グループホーム・ケアホーム、精神障害グループホーム・ケアホームと比べると多かった。

知的障害グループホーム・ケアホームは、「自立」が42%と多かった。「一部介助」と「全介助」はいずれも20%で比較的少なかった。

身体障害支援施設は、「自立」が6%、「見守り注意」が3%と他の事業種と比べて最も少なかった。「全介助」は71%と他の事業種と比べて最も多かった。

精神障害グループホーム・ケアホームは、自立が79%で他の事業種と比べて最も多かった。「見守り注意」が14%であった。「一部介助」「全介助」は他の事業種と比べて最も少なかった。

⑨ 服薬と事業種別 (表 14 - 9)

知的障害支援施設は、服薬の自立は3%と他の事業種と比べて最も少なかった。「見守り注意」は9%と少なかった。「全介助」は71%で、知的障害生活介護や知的障害グループホーム・ケアホーム、精神障害グループホーム・ケアホームと比べると多かった。

知的障害生活介護は、「自立」が9%と少なかった。「見守り注意」が18%と比較的多かった。「一部介助」については、28%で他の事業種と比べて最も多かった。「全介助」は45%であったが、知的障害グループホーム・ケアホーム、精神障害グループホーム・ケアホームと比べると30%以上多かった。

知的障害グループホーム・ケアホームは、自立が27%と多かった。「見守り注意」は43%で他の事業種と比較して最も多かった。一部介助も比較的多かった。「全介助」は11%で知的障害支援施設や知的障害生活介護、身体障害支援施設と比べると少なかった。

身体障害支援施設は、「自立」が6%と少なかった。「見守り注意」は5%と他の事業種と比べて最も少なかった。「一部介助」も8%と他の事業種と比べて最も少なかった。「全介助」は82%と他の事業種と比べて最も多かった。

精神障害グループホーム・ケアホームは、自立が41%で他の事業種と比べて最も多かった。「見守り注意」は35%で知的障害グループホーム・ケアホームに次いで多かった。「全介助」は他の事業種と比べて最も少なかった。

表14-1 寝返りと事業種別

p < 0.01

			事業種別				合計
			知的支援施設	知的生活介護	知的GHCH	身体支援施設	
寝返り	自立	度数	1727	312	695	331	3065
		事業種別の%	72.8	57.2	94.7	25.5	62.0
		調整済み残差	15.09	-2.40	19.79	-31.43	
	見守り注意	度数	332	113	28	90	563
		事業種別の%	14.0	20.7	3.8	6.9	11.4
		調整済み残差	5.56	7.29	-6.99	-5.85	
	一部介助	度数	154	66	7	179	406
		事業種別の%	6.5	12.1	1.0	13.8	8.2
		調整済み残差	-4.22	3.52	-7.76	8.56	
	全介助	度数	159	54	4	696	913
		事業種別の%	6.7	9.9	0.5	53.7	18.5
		調整済み残差	-20.45	-5.45	-13.55	38.08	
合計		度数	2372	545	734	1296	4947
		事業種別の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

0セル(.0%)は期待度数が5未満です。

表14-2 座位保持と事業種別

p < 0.01

			事業種別					合計
			知的支援施設	知的生活介護	知的GHCH	身体支援施設	精神GHCH	
座位保持	自立	度数	1557	314	664	276	103	2914
		事業種別の%	63.3	56.6	85.6	22.0	93.6	56.5
		調整済み残差	9.44	0.03	17.71	-28.42	7.94	
	見守り注意	度数	498	122	45	154	6	825
		事業種別の%	20.3	22.0	5.8	12.3	5.5	16.0
		調整済み残差	7.96	4.07	-8.41	-4.17	-3.05	
	一部介助	度数	226	68	16	216	1	527
		事業種別の%	9.2	12.3	2.1	17.2	0.9	10.2
		調整済み残差	-2.32	1.67	-8.14	9.37	-3.26	
	全介助	度数	177	51	51	611	0	890
		事業種別の%	7.2	9.2	6.6	48.6	0.0	17.3
		調整済み残差	-18.25	-5.33	-8.55	33.82	-4.84	
合計		度数	2458	555	776	1257	110	5156
		事業種別の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

0セル(.0%)は期待度数が5未満です。

表14-3 移動と事業種別

p < 0.01

			事業種別					合計
			知的支援施設	知的生活介護	知的GHCH	身体支援施設	精神GHCH	
移動	自立	度数	485	88	361	285	81	1300
		事業種別の%	21.2	19.1	49.1	22.3	73.6	26.7
		調整済み残差	-8.12	-3.86	14.91	-4.16	11.26	
	見守り注意	度数	694	186	241	166	22	1309
		事業種別の%	30.4	40.4	32.8	13.0	20.0	26.9
		調整済み残差	5.16	6.89	3.92	-13.06	-1.65	
	一部介助	度数	611	169	116	244	6	1146
		事業種別の%	26.7	36.7	15.8	19.1	5.5	23.5
		調整済み残差	4.95	7.01	-5.38	-4.38	-4.52	
	全介助	度数	495	17	17	584	1	1114
		事業種別の%	21.7	3.7	2.3	45.7	0.9	22.9
		調整済み残差	-1.90	-10.29	-14.41	22.59	-5.55	
合計		度数	2285	460	735	1279	110	4869
		事業種別の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

0セル(.0%)は期待度数が5未満です。

表14-4 食事と事業種別

p < 0.01

			事業種別					合計
			知的支援施設	知的生活介護	知的GHCH	身体支援施設	精神GHCH	
食事	自立	度数	417	120	377	238	87	1239
		事業種別の%	19.0	20.1	52.1	18.6	77.7	25.3
		調整済み残差	-9.01	-3.10	17.97	-6.40	12.91	
	見守り注意	度数	773	217	276	172	17	1455
		事業種別の%	35.3	36.3	38.1	13.4	15.2	29.7
		調整済み残差	7.75	3.80	5.38	-14.80	-3.40	
	一部介助	度数	691	150	67	311	8	1227
		事業種別の%	31.6	25.1	9.3	24.3	7.1	25.0
		調整済み残差	9.49	0.06	-10.61	-0.70	-4.42	
	全介助	度数	308	110	4	559	0	981
		事業種別の%	14.1	18.4	0.6	43.7	0.0	20.0
		調整済み残差	-9.34	-1.03	-14.18	24.61	-5.36	
合計		度数	2189	597	724	1280	112	4902
		事業種別の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

0セル(.0%)は期待度数が5未満です。

表14-5 排泄と事業種別

p < 0.01

			事業種別					合計
			知的支援施設	知的生活介護	知的GHCH	身体支援施設	精神GHCH	
排泄	自立	度数	396	99	427	108	94	1124
		事業種別の%	17.5	17.6	58.5	8.5	84.7	22.8
		調整済み残差	-8.11	-3.12	24.90	-14.06	15.71	
	見守り注意	度数	523	154	175	52	11	915
		事業種別の%	23.2	27.4	24.0	4.1	9.9	18.6
		調整済み残差	7.63	5.72	4.07	-15.36	-2.37	
	一部介助	度数	773	177	112	262	5	1329
		事業種別の%	34.2	31.5	15.3	20.7	4.5	27.0
		調整済み残差	10.57	2.57	-7.67	-5.85	-5.39	
	全介助	度数	566	132	16	845	1	1560
		事業種別の%	25.1	23.5	2.2	66.7	0.9	31.7
		調整済み残差	-9.15	-4.42	-18.54	31.11	-7.05	
合計		度数	2258	562	730	1267	111	4928
		事業種別の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

0セル(.0%)は期待度数が5未満です。

表14-6 入浴と事業種別

p < 0.01

			事業種別					合計
			知的支援施設	知的生活介護	知的GHCH	身体支援施設	精神GHCH	
入浴	自立	度数	127	68	312	30	86	623
		事業種別の%	5.3	11.4	41.7	2.2	74.1	12.0
		調整済み残差	-13.78	-0.51	27.06	-12.70	20.85	
	見守り注意	度数	399	122	177	17	18	733
		事業種別の%	16.6	20.4	23.7	1.3	15.5	14.1
		調整済み残差	4.82	4.69	8.12	-15.61	0.44	
	一部介助	度数	798	169	207	213	10	1397
		事業種別の%	33.2	28.2	27.7	16.0	8.6	26.9
		調整済み残差	9.57	0.79	0.54	-10.42	-4.48	
	全介助	度数	1078	240	52	1074	2	2446
		事業種別の%	44.9	40.1	7.0	80.5	1.7	47.0
		調整済み残差	-2.90	-3.64	-23.74	28.40	-9.89	
合計		度数	2402	599	748	1334	116	5199
		事業種別の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

0セル(.0%)は期待度数が5未満です。

表14-7 整容と事業種別

p < 0.01

			事業種別					合計
			知的支援施設	知的生活介護	知的GHCH	身体支援施設	精神GHCH	
整容	自立	度数	147	45	243	119	80	634
		事業種別の%	6.4	7.2	33.3	9.6	72.1	12.6
		調整済み残差	-12.36	-4.38	18.21	-3.73	19.07	
	見守り注意	度数	338	119	264	45	25	791
		事業種別の%	14.6	19.0	36.2	3.6	22.5	15.8
		調整済み残差	-2.05	2.39	16.40	-13.53	1.98	
	一部介助	度数	838	198	191	277	6	1510
		事業種別の%	36.2	31.6	26.2	22.3	5.4	30.1
		調整済み残差	8.80	0.91	-2.46	-6.90	-5.73	
	全介助	度数	990	264	31	802	0	2087
		事業種別の%	42.8	42.2	4.3	64.5	0.0	41.6
		調整済み残差	1.65	0.33	-22.11	18.94	-8.98	
合計		度数	2313	626	729	1243	111	5022
		事業種別の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

0セル(.0%)は期待度数が5未満です。

表14-8 着衣と事業種別

p < 0.01

			事業種別					合計
			知的支援施設	知的生活介護	知的GHCH	身体支援施設	精神GHCH	
着衣	自立	度数	323	84	379	73	88	947
		事業種別の%	13.9	14.0	42.3	5.9	79.3	18.3
		調整済み残差	-7.40	-2.91	20.44	-13.00	16.79	
	見守り注意	度数	586	163	163	41	15	968
		事業種別の%	25.2	27.2	18.2	3.3	13.5	18.7
		調整済み残差	10.84	5.64	-0.43	-15.98	-1.42	
	一部介助	度数	748	175	175	249	8	1355
		事業種別の%	32.2	29.2	19.6	20.0	7.2	26.2
		調整済み残差	8.86	1.75	-4.98	-5.66	-4.60	
	全介助	度数	665	178	178	879	0	1900
		事業種別の%	28.6	29.7	19.9	70.8	0.0	36.8
		調整済み残差	-10.92	-3.83	-11.51	28.53	-8.12	
合計		度数	2322	600	895	1242	111	5170
		事業種別の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

0セル(.0%)は期待度数が5未満です。

表14-9 服薬と事業種別

p < 0.01

			事業種別					合計
			知的支援施設	知的生活介護	知的GHCH	身体支援施設	精神GHCH	
服薬	自立	度数	63	55	195	81	52	446
		事業種別の%	2.5	9.1	26.5	6.3	41.3	8.5
		調整済み残差	-14.71	0.56	18.84	-3.31	13.34	
	見守り注意	度数	215	108	316	60	44	743
		事業種別の%	8.7	17.9	42.9	4.7	34.9	14.2
		調整済み残差	-10.88	2.77	24.10	-11.30	6.76	
	一部介助	度数	447	169	148	98	28	890
		事業種別の%	18.0	28.0	20.1	7.6	22.2	17.0
		調整済み残差	1.86	7.65	2.42	-10.34	1.59	
	全介助	度数	1759	272	78	1051	2	3162
		事業種別の%	70.8	45.0	10.6	81.5	1.6	60.3
		調整済み残差	14.72	-8.17	-29.78	17.88	-13.64	
合計		度数	2484	604	737	1290	126	5241
		事業種別の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

0セル(.0%)は期待度数が5未満です。

(11) 日常の意思疎通等の状況と事業種別

日常の意思疎通等の状況と事業種別との関連性を見るために、意思疎通の各項目ごとにクロス表を作成し、 χ^2 乗検定を行ったところ、全ての項目で有意差が見られた。それ故、日常の意思疎通等の項目と事業種別との間には関連性があるといえよう。各項目についての評価は、「ほぼできる又はほぼ理解している」（以下「ほぼできる」と記述）、「一部できる又は一部理解している」（以下「一部できる」と記述）、「ほとんどできない又はほとんど理解していない」（以下「ほとんどできない」と記述）の3段階であった。以下、検定結果に基づきながら各動作と事業種別との関連性について述べる。

① 意思決定と事業種別（表 15 - 1）

知的障害支援施設は、意思決定が「ほぼできる」は19%と、他の事業種と比べて最も少なかった。「一部できる」は比較的多かった。そして、「ほとんどできない」は35%で、他の事業種と比べて最も多かった。

知的障害生活介護は、「ほぼできる」が20%と少なかった。「一部できる」が50%と多かった。「ほとんどできない」は30%であったが、知的障害グループホーム・ケアホームや精神障害グループホーム・ケアホーム、身体障害支援施設と比べると多かった。

知的障害グループホーム・ケアホームは、「ほぼできる」が36%と多かった。「一部できる」は52%で他の事業種と比べて最も多かった。「ほとんどできない」は12%で少なかった。

身体障害支援施設は、「ほぼできる」が46%で多かった。「一部できる」は、28%で精神障害グループホーム・ケアホームの27%とともに他の事業種と比べて少なかった。「ほとんどできない」は26%で、知的障害支援施設や知的障害生活介護と比較して少なかった。

精神障害グループホーム・ケアホームは、「ほぼできる」が69%と他の事業種と比べて最も多かった。「一部できる」は27%で少なかった。「ほとんどできない」は4%で他の事業種と比べて最も少なかった。

② 日課の理解と事業種別（表 15 - 2）

知的障害支援施設は、日課の理解が「ほぼできる」は23%と、他の事業種と比べて最も少なかった。「一部できる」は比較的多かった。そして、「ほとんどできない」は36%で、他の事業種と比べて最も多かった。

知的障害生活介護は、「ほぼできる」が24%と少なかった。「一部できる」は45%と他の事業種と比べて最も多かった。「ほとんどできない」は31%であったが、知的障害グループホーム・ケアホームや精神障害グループホーム・ケアホーム、身体障害支援施設と比べると多かった。

知的障害グループホーム・ケアホームは、「ほぼできる」が53%と多かった。「ほとんどできない」は10%で少なかった。

身体障害支援施設は、「ほぼできる」が49%で多かった。「一部できる」は、26%で他の事業種と比べて最も少なかった。「ほとんどできない」は26%で、知的障害支援施設や知的障害生活介護と比較して少なかった。

精神障害グループホーム・ケアホームは、「ほぼできる」が64%と他の事業種と比べて最も多かった。「ほとんどできない」は2%で他の事業種と比べて最も少なかった。

③ 意思伝達と事業種別（表 15 - 3）

知的障害支援施設は、意思伝達が「ほぼできる」は18%と、他の事業種と比べて最も少なかった。「一部できる」は49%と比較的多かった。そして、「ほとんどできない」は34%で、他の事業種と比べて最も多かった。

知的障害生活介護は、「ほぼできる」が19%と少なかった。「一部できる」が52%で他の事業種と比べて最も多かった。「ほとんどできない」は29%であったが、知的障害グループホーム・ケアホームや精神障害グループホーム・ケアホーム、身体障害支援施設と比べると多かった。

知的障害グループホーム・ケアホームは、「ほぼできる」が41%と多かった。「一部できる」は48%で多かった。「ほとんどできない」は12%で精神障害グループホーム・ケアホームに次いで少なかった。

身体障害支援施設は、「ほぼできる」が47%で多かった。「一部できる」は29%で精神障害グループホーム・ケアホームの29%とともに他の事業種と比べて少なかった。「ほとんどできない」は25%で、知的障害支援施設や知的障害生活介護と比較して少なかった。

精神障害グループホーム・ケアホームは、「ほぼできる」が66%と他の事業種と比べて最も多かった。「一部できる」は29%で少なかった。「ほとんどできない」は4%で他の事業種と比べて最も少なかった。

④ 指示への反応と事業種別（表 15 - 4）

知的障害支援施設は、指示への反応が「ほぼできる」は20%と知的障害生活介護の19%とともに、他の事業種と比べて少なかった。「一部できる」は50%と比較的多かった。そして、「ほとんどできない」は30%で、他の事業種と比べて最も多かった。

知的障害生活介護は、「ほぼできる」が19%と少なかった。「一部できる」が53%で他の事業種と比べて最も多かった。「ほとんどできない」は28%であったが、知的障害グループホーム・ケアホームや精神障害グループホーム・ケアホームと比べると明らかに多かった。

知的障害グループホーム・ケアホームは、「ほぼできる」が40%と多かった。「一部できる」は51%で多かった。「ほとんどできない」は10%で精神障害グループホーム・ケアホームに次いで少なかった。

身体障害支援施設は、「ほぼできる」が47%で多かった。「一部できる」は28%で他の事業種と比べて最も少なかった。「ほとんどできない」は24%で、知的障害支援施設や知的障害生活介護と比較して少なかった。

精神障害グループホーム・ケアホームは、「ほぼできる」が57%と他の事業種と比べて最も多かった。「一部できる」は39%で少なかった。「ほとんどできない」は4%で他の事業種と比べて最も少なかった。

表15-1 意思決定と事業種別

p < 0.01

			事業所別					合計
			知的支援施設	知的生活介護	知的GHCH	身体支援施設	精神GHCH	
意思決定	ほぼできる 理解	度数	436	124	277	539	89	1465
		事業所別の%	18.7	20.1	36.1	46.4	69.0	29.2
		調整済み残差	-15.37	-5.36	4.55	14.69	10.06	
	一部できる 理解	度数	1086	308	397	324	35	2150
		事業所別の%	46.5	49.8	51.8	27.9	27.1	42.9
		調整済み残差	4.80	3.71	5.38	-11.79	-3.67	
	ほとんどで きない	度数	813	186	93	298	5	1395
		事業所別の%	34.8	30.1	12.1	25.7	3.9	27.8
		調整済み残差	10.29	1.33	-10.55	-1.89	-6.15	
合計	度数	2335	618	767	1161	129	5010	
	事業所別の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

0セル(.0%)は期待度数が5未満です。

表15-2 日課理解と事業種別

p < 0.01

			事業所別					合計
			知的支援施設	知的生活介護	知的GHCH	身体支援施設	精神GHCH	
日課理解	ほぼできる 理解	度数	525	144	411	558	72	1710
		事業所別の%	22.6	23.7	52.6	48.9	63.7	34.4
		調整済み残差	-16.45	-5.95	11.66	11.70	6.63	
	一部できる 理解	度数	968	276	296	293	39	1872
		事業所別の%	41.7	45.4	37.9	25.7	34.5	37.7
		調整済み残差	5.42	4.19	0.14	-9.56	-0.70	
	ほとんどで きない	度数	831	188	74	291	2	1386
		事業所別の%	35.8	30.9	9.5	25.5	1.8	27.9
		調整済み残差	11.58	1.77	-12.50	-2.08	-6.26	
合計	度数	2324	608	781	1142	113	4968	
	事業所別の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

0セル(.0%)は期待度数が5未満です。

表15-3 意思伝達と事業種別

p < 0.01

			事業所別					合計
			知的支援施設	知的生活介護	知的GHCH	身体支援施設	精神GHCH	
意思伝達	ほぼできる 理解	度数	423	118	312	543	75	1471
		事業所別の%	17.9	19.2	40.8	46.6	66.4	29.3
		調整済み残差	-16.77	-5.85	7.62	14.82	8.76	
	一部できる 理解	度数	1151	321	364	333	33	2202
		事業所別の%	48.6	52.3	47.6	28.6	29.2	43.8
		調整済み残差	6.47	4.50	2.30	-11.98	-3.17	
	ほとんどで きない	度数	792	175	88	289	5	1349
		事業所別の%	33.5	28.5	11.5	24.8	4.4	26.9
		調整済み残差	9.98	0.98	-10.39	-1.81	-5.44	
合計	度数	2366	614	764	1165	113	5022	
	事業所別の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

0セル(.0%)は期待度数が5未満です。

表15-4 指示反応と事業種別

p < 0.01

			事業所別					合計
			知的支援施設	知的生活介護	知的GHCH	身体支援施設	精神GHCH	
指示反応	ほぼできる 理解	度数	460	116	300	549	65	1490
		事業所別の%	19.9	19.2	39.7	47.2	57.0	30.1
		調整済み残差	-14.67	-6.22	6.25	14.52	6.33	
	一部できる 理解	度数	1153	318	381	330	44	2226
		事業所別の%	49.9	52.7	50.5	28.4	38.6	45.0
		調整済み残差	6.47	4.07	3.27	-13.04	-1.39	
	ほとんどで きない	度数	698	169	74	284	5	1230
		事業所別の%	30.2	28.0	9.8	24.4	4.4	24.9
		調整済み残差	8.13	1.91	-10.40	-0.41	-5.12	
合計	度数	2311	603	755	1163	114	4946	
	事業所別の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

0セル(.0%)は期待度数が5未満です。

(12) 主な日中の過ごし方と事業種別 (表 16)

主な日中の過ごし方と各事業所の利用者との関連性をみるために、クロス表を作成し、 χ^2 乗検定を行ったところ、有意差が見られた。それ故、主な日中の過ごし方と事業所との間には関連性があるといえよう。

知的障害支援施設は、「作業的活動」が48%、「創作的活動（好きなテレビを観るなど趣味的な活動も含む）」が35%であり、両方を合わせると、83%であった。「何もしていない」が13%と比較的多かった。

知的障害生活介護は「作業的活動」が54%、「創作的活動」が35%で両方合わせると89%であった。

知的障害グループホーム・ケアホームは、「作業的活動」が70%、「創作的活動」が25%で、両方合わせて95%であり、他の事業種と比較して最も多かった。

身体障害支援施設は、「作業的活動」が7%、「創作的活動」が58%であり、両方で65%と他の事業種と比較して最も少なかった。「何もしていない」が19%で他の事業種と比較して最も多かった。

精神障害グループホーム・ケアホームは、「作業的活動」が58%、「創作的活動」が26%で両方合わせると84%であった。

表16 日中の過ごし方と事業種別

p < 0.01

		事業種別					合計	
		知的支援施設	知的生活介護	知的GHCH	身体支援施設	精神GHCH		
日中の過ごし方	作業的活動	度数	3753	1456	1910	282	209	7610
		事業種別の%	48.1	53.9	70.4	7.1	57.6	43.4
		調整済み残差	11.17	11.99	30.85	-52.24	5.51	
	創作的活動	度数	2727	942	679	2303	95	6746
		事業種別の%	34.9	34.9	25.0	58.3	26.2	38.5
		調整済み残差	-8.65	-4.17	-15.66	29.10	-4.86	
	何もしていない	度数	1004	238	70	768	15	2095
		事業種別の%	12.9	8.8	2.6	19.4	4.1	11.9
		調整済み残差	3.33	-5.46	-16.36	16.50	-4.64	
	ほぼベッドの上	度数	266	41	46	546	1	900
		事業種別の%	3.4	1.5	1.7	13.8	0.3	5.1
		調整済み残差	-9.28	-9.25	-8.83	28.12	-4.24	
	その他	度数	60	24	9	52	43	188
		事業種別の%	0.8	0.9	0.3	1.3	11.8	1.1
		調整済み残差	-3.50	-1.01	-4.07	1.69	20.14	
合計		度数	7810	2701	2714	3951	363	17539
		事業種別の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

1セル(.0%)は期待度数が5未満です。

(13) 夜間支援と事業種別

① 夜間の身体介護状況と事業種別 (表 17 - 1)

夜間の身体介護状況と各事業所との関連性を見るために、クロス表を作成し、 χ^2 乗検定を行ったところ、有意差が見られた。それ故、夜間の身体介護状況と事業所との間には関連性があるといえよう。

知的障害支援施設では、身体介護が「一晩に2回以上」は17%と身体障害支援施設に次いで多かった。「一晩に1回」は17%で他の事業種と比べて最も多かった。

知的障害グループホーム・ケアホームは「一晩に2回以上」と「一晩に1回」は3%台であり、

「特に必要ない」が93%と多かった。

身体障害支援施設では身体介護が「一晩に2回以上」は68%と最も多く、2番目の知的障害支援施設の17%とは大きな開きがあった。「一晩に1回」が15%であった。「特に必要ない」は17%と他の事業種と比較して最も少なかった。

精神障害グループホーム・ケアホームは、「特に必要ない」が99%ときわめて多かった。

② 夜間の見回り支援の状況と事業種別 (表17-2)

夜間の見回り支援の状況と各事業所との関連性を見るために、クロス表を作成し、 χ^2 二乗検定を行ったところ、有意差が見られた。それ故、夜間の見回り支援の状況と事業所との間には関連性があるといえよう。

知的障害支援施設では、見回り支援が「一晩に2回以上」は74%と身体障害支援施設に次いで多かった。「一晩に1回」は13%で、知的障害グループホーム・ケアホームに次いで多かった。「特に必要ない」は13%で比較的少なかった。

知的障害グループホーム・ケアホームは「一晩に2回以上」が16%と比較的少なかった。「一晩に1回」は24%で他の事業種と比較して最も多かった。「特に必要ない」は60%と精神障害グループホーム・ケアホームに次いで多かった。

身体障害支援施設では見回りが「一晩に2回以上」は91%と最も多かった。「一晩に1回」は7%と少なく、「特に必要ない」は3%にすぎなかった。

精神障害グループホーム・ケアホームは、「特に必要ない」が87%と他の事業種と比較して最も多かった。「一晩に1回」が9%であった。

表17-1 身体介護と事業種別

p < 0.01

			事業種別				合計
			知的支援施設	知的GHCH	身体支援施設	精神GHCH	
身体介護	一晩に2回以上	度数	1277	105	3649	1	5032
		事業種別の%	17.4	3.8	67.5	0.1	31.2
		調整済み残差	-34.37	-33.84	70.75	-17.84	
	一晩に1回程度	度数	1211	93	828	3	2135
		事業種別の%	16.5	3.4	15.3	0.4	13.2
		調整済み残差	11.29	-16.63	5.59	-10.05	
	特に必要ない	度数	4843	2537	928	676	8984
		事業種別の%	66.1	92.8	17.2	99.4	55.6
		調整済み残差	24.34	42.89	-69.76	23.48	
合計	度数	7331	2735	5405	680	16151	
	事業種別の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

0セル(.0%)は期待度数が5未満です。

表17-2 見回りと事業種別

p < 0.01

			事業種別				合計
			知的支援施設	知的GHCH	身体支援施設	精神GHCH	
見回り	一晩に2回以上	度数	5804	461	4923	28	11216
		事業種別の%	74.4	16.4	90.5	4.1	67.0
		調整済み残差	18.97	-62.57	44.79	-35.68	
	一晩に1回程度	度数	1022	674	361	59	2116
		事業種別の%	13.1	24.0	6.6	8.7	12.6
		調整済み残差	1.66	19.82	-16.24	-3.20	
	特に必要ない	度数	976	1676	158	595	3405
		事業種別の%	12.5	59.6	2.9	87.2	20.3
		調整済み残差	-23.53	56.71	-38.91	44.31	
合計	度数	7802	2811	5442	682	16737	
	事業種別の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	

0セル(.0%)は期待度数が5未満です。

(14) 外出状況と事業種別

① 行事等による外出状況と事業種別 (表 18 - 1)

行事等による外出の状況と各事業所との関連性を見るために、クロス表を作成し、 χ 二乗検定を行ったところ、有意差が見られた。それ故、行事等による外出の状況と事業所との間には関連性があるといえよう。

知的障害支援施設では、行事等による外出が「月に1回程度」が36%で、他の事業種と比較して最も多かった。「年に3～4回程度」も28%で身体障害支援施設に次いで多かった。

知的障害グループホーム・ケアホームは、「週に1回程度」が20%、「週に2回以上」が30%と多かった。「年に2回以下」とか「年に3～4回程度」というのは少なかった。

身体障害支援施設は、「年に2回以下」が43%、「年に3～4回程度」が38%で両方合わせて81%であった。そして、「月に1回程度」が13%であった。

精神障害グループホーム・ケアホームは、「週に1回程度」が18%、「週に2回以上」が45%と多かった。「年に2回以下」とか「年に3～4回程度」というのは少なかった。

② 散歩等の外出状況と事業種別 (表 18 - 2)

散歩等の外出の状況と各事業所との関連性を見るために、クロス表を作成し、 χ 二乗検定を行ったところ、有意差が見られた。それ故、散歩等の外出状況と事業所との間には関連性があるといえよう。

知的障害支援施設では、散歩等の外出が「週に1～2回程度」が40%、「日に1回程度」が29%と多かった。「日に2回以上」は7%と少なかった。

知的障害グループホーム・ケアホームは、「週に1～2回程度」が34%、「日に1回程度」が44%と多かった。「日に2回以上」は7%と少なかった。

身体障害支援施設は、「月に1～2回以下」が60%で他の事業種と比較して最も多かった。「週に1～2回程度」が20%であった。

精神障害グループホーム・ケアホームでは、「日に1回程度」が38%、「日に2回以上」が39%と多かった。「週に1～2回程度」は20%であった。

以上、施設・事業所郵送調査のクロス表分析結果から、グループホーム・ケアホームで生活する高齢の障害者の特徴やその支援の実態についてまとめると、以下のようになる。

- ・ 障害程度区分についてみると、グループホーム・ケアホーム利用の知的障害者は、非該当～区分3にかけては多く、区分4～6は少なかった。同様な傾向は、グループホーム・ケアホーム利用の精神障害者についても見られた。支援施設利用の知的障害者は、対照的に非該当～区分3にかけては少なく、区分4～6は多かった。生活介護利用の知的障害者は支援施設利用の知的障害者と類似していて、非該当～区分2にかけては少なく、区分3～5は多かった。
- ・ 健康状況の結果から、「元気」なグループホーム・ケアホーム利用の知的障害者は49歳までは相対的に多いが、50歳を過ぎると減少していた。同様な傾向は、支援施設利用の知的障害者、生活介護利用の知的障害者にもみられた。また、「病気がち」のグループホーム・ケア

ホーム利用の知的障害者は、49歳までは少ないが、50歳以降増加した。このような傾向は、支援施設利用の知的障害者、生活介護利用の知的障害者も同様であった。なお、グループホーム・ケアホーム利用の精神障害者については、健康状況と年齢との間に明らか関連性は認められなかった。

- ・ 高齢化・老化が「問題となっている」ということと年齢との関係をみると、グループホーム・ケアホーム利用の知的障害者は、49歳までは明らかに少なかったが、50歳以降増加していた。同様な傾向は、支援施設利用の知的障害者、生活介護利用の知的障害者にもみられた。なお、グループホーム・ケアホーム利用の精神障害者については、高齢化・老化が「問題となっている」利用者は、60歳未満では明らかに少なかったが、60歳以降増加していた。知的障害者に比べて、「問題」となるのが10歳程度遅くなっていることがわかる。知的障害者については、高齢化・老化が「問題」となるのは、一般の高齢者よりも早いことが考えられる。
- ・ 高齢化・老化が「問題となっている」という人の割合をみると、支援施設利用の知的障害者、支援施設利用の身体障害者が25%前後、生活介護利用の知的障害者、グループホーム・ケアホーム利用の知的障害者、グループホーム・ケアホーム利用の精神障害者が15%前後であった。グループホーム・ケアホーム利用者は、高齢化・老化が「問題となっている」という人が支援施設利用者よりも少ないといえよう。
- ・ 毎日の行動範囲についてみると、グループホーム・ケアホーム利用の知的障害者、グループホーム・ケアホーム利用の精神障害者は、支援施設利用の知的障害者、生活介護利用の知的障害者、支援施設利用の身体障害者に比べて「行動は活発であり、危なげはない」者が多かった。しかし、「行動は活発であり、危なげはない」者の割合をみると、グループホーム・ケアホーム利用の知的障害者で24%、グループホーム・ケアホーム利用の精神障害者で28%であり、その割合は相対的には多いと言っても、全体の1/4程度であり、決して多いものではない。生活介護利用の知的障害者では14%と低く、支援施設利用の知的障害者や支援施設利用の身体障害者ではいずれも5%程度とより一層低かった。
- ・ 「寝返り」「座位保持」「移動」「食事」「排泄」「入浴」「整容」「着衣」「服薬」などの日常生活動作の状況については、グループホーム・ケアホーム利用の知的障害者、グループホーム・ケアホーム利用の精神障害者は自立している者が支援施設利用の知的障害者、生活介護利用の知的障害者、支援施設利用の身体障害者と比較して、明らかに多かった。グループホーム・ケアホーム利用の知的障害者とグループホーム・ケアホーム利用の精神障害者とを比べると、より一層、グループホーム・ケアホーム利用の精神障害者において自立している者が多かった。しかし、「移動」「入浴」「整容」「着衣」「服薬」の自立者の割合は、グループホーム・ケアホーム利用の知的障害者において50%にも達していないので、グループホーム・ケアホーム利用者といえども、日常生活動作の支援が重要であることに変わりはない。
- ・ 日常の意思疎通等の状況をみると、「意志決定」について「ほぼ理解できる」者は、支援施設利用の知的障害者19%、生活介護利用の知的障害者20%、グループホーム・ケアホーム利用の知的障害者36%、支援施設利用の身体障害者46%、グループホーム・ケアホーム利用の精神障害者69%であった。グループホーム・ケアホーム利用の知的障害者は支援施設利用の知的障害者や生活介護利用の知的障害者に比べるとその割合は多かったが、50%にも達していなかった。「意志伝達」「指示反応」についても同様であった。

- ・ 多動、自傷、他傷、拒食などの行動面に関して、グループホーム・ケアホーム利用の知的障害者は、支援施設や生活介護を利用している知的障害者と比較して、支援の程度が軽いものが多かった。
- ・ 日中の過ごし方として、作業的活動をしている者は、支援施設利用の知的障害者が48%、生活介護利用の知的障害者が54%であったのに対して、グループホーム・ケアホーム利用の知的障害者は70%であった。このことより、グループホーム・ケアホーム利用の知的障害者に対する作業活動支援のより一層の重要性が指摘できる。
- ・ 施設の行事や本人の都合による外出の頻度をみると、支援施設利用の知的障害者と比較して、グループホーム・ケアホーム利用の知的障害者は多かった。グループホーム・ケアホーム利用の知的障害者へのより充実した外出支援の在り方の一層の検討が必要となるだろう。

表18-1 行事外出状況と事業種別 p < 0.01

			事業種別				合計
			知的支援施設	知的GHCH	身体支援施設	精神GHCH	
行事外出 状況	年に2回以下	度数	726	219	2232	84	3261
		事業種別の%	9.5	8.3	43.4	13.1	20.3
		調整済み残差	-32.33	-16.83	49.94	-4.66	
	年に3~4回程度	度数	2142	286	1931	29	4388
		事業種別の%	28.1	10.8	37.6	4.5	27.3
		調整済み残差	2.05	-20.86	19.96	-13.25	
	月に1回程度	度数	2722	376	679	62	3839
		事業種別の%	35.7	14.2	13.2	9.6	23.9
		調整済み残差	33.29	-12.79	-21.82	-8.66	
	月に2~3回程度	度数	1263	446	186	64	1959
		事業種別の%	16.6	16.9	3.6	10.0	12.2
		調整済み残差	16.05	8.01	-22.80	-1.78	
	週に1回程度	度数	606	518	87	117	1328
		事業種別の%	7.9	19.6	1.7	18.2	8.3
		調整済み残差	-1.42	23.11	-20.77	9.33	
	週に2回以上	度数	169	801	27	287	1284
		事業種別の%	2.2	30.3	0.5	44.6	8.0
		調整済み残差	-25.69	46.23	-23.95	34.96	
合計		度数	7628	2646	5142	643	16059
		事業種別の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

0セル(.0%)は期待度数が5未満です。

表18-2 散歩等の外出状況と事業種別 p < 0.01

			事業種別				合計
			知的支援施設	知的GHCH	身体支援施設	精神GHCH	
散歩等の 外出状況	月に1~2回以下	度数	1853	288	3450	21	5612
		事業種別の%	23.6	14.6	60.4	3.2	34.6
		調整済み残差	-28.76	-20.03	50.84	-17.14	
	週に1~2回程度	度数	3146	668	1139	131	5084
		事業種別の%	40.0	33.8	19.9	20.2	31.4
		調整済み残差	22.98	2.44	-23.16	-6.24	
	日に1回程度	度数	2287	876	383	245	3791
		事業種別の%	29.1	44.3	6.7	37.8	23.4
		調整済み残差	16.60	23.42	-37.04	8.85	
	日に2回以上	度数	581	147	743	251	1722
		事業種別の%	7.4	7.4	13.0	38.7	10.6
		調整済み残差	-12.99	-4.92	7.25	23.70	
合計		度数	7628	2646	5142	643	16059
		事業種別の%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

2. 施設・事業所訪問調査

(1) 年齢区分と住居 (表 19)

入所施設は、60～64歳、65～69歳、70～74歳が20%前後、75～79歳が15%であった。60～79歳が3/4を占めていた。

グループホーム・ケアホームは、60～64歳が36%、65～69歳が21%、70～74歳が17%で、60～74歳が3/4を占めていた。

居宅は、50～54歳が17%、55～59歳が14%、60～64歳が33%、65～69歳が14%であり、50～69歳が3/4以上を占めている。

表19 年齢区分と住居

p < 0.01

			住 居			合計
			入所施設	GHCH	居宅	
年齢区分	～49歳	度数	9	5	5	19
		住居の%	3.1	2.7	6.4	3.5
		調整済み残差	-0.45	-0.66	1.54	
50-54歳	度数	20	12	13	45	
	住居の%	6.9	6.6	16.7	8.2	
	調整済み残差	-1.12	-0.99	2.94		
55-59歳	度数	15	11	11	37	
	住居の%	5.2	6.0	14.1	6.7	
	調整済み残差	-1.50	-0.48	2.80		
60-64歳	度数	57	65	26	148	
	住居の%	19.8	35.5	33.3	27.0	
	調整済み残差	-3.97	3.20	1.37		
65-69歳	度数	65	38	11	114	
	住居の%	22.6	20.8	14.1	20.8	
	調整済み残差	1.09	0.00	-1.57		
70-74歳	度数	53	31	6	90	
	住居の%	18.4	16.9	7.7	16.4	
	調整済み残差	1.34	0.24	-2.24		
75-79歳	度数	44	17	5	66	
	住居の%	15.3	9.3	6.4	12.0	
	調整済み残差	2.46	-1.39	-1.65		
80-84歳	度数	20	3	1	24	
	住居の%	6.9	1.6	1.3	4.4	
	調整済み残差	3.10	-2.21	-1.44		
85歳以上	度数	5	1	0	6	
	住居の%	1.7	0.5	0.0	1.1	
	調整済み残差	1.52	-0.87	-1.00		
合計		度数	288	183	78	549
		住居の%	100.0	100.0	100.0	100.0

5セル(18.5%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は.85です。

(2) 障害程度区分と住居 (表 20)

障害程度区分と住居との間に関連性があるかどうかをみるために、クロス表を作成し、 χ^2 乗検定を行ったところ、有意差が見られた。したがって、障害程度区分と住居との間には関連性があるということが出来る。なお、住居は入所施設、グループホーム・ケアホーム、居宅の3か所とした。

入所施設は、区分1、2は少なく、合わせても0.4%であった。区分4～6が多く、4～6を合わせると87%であった。

グループホーム・ケアホームは、区分2と3とを合わせると65%と多かった。区分5、6は少なく、いずれも6%台であった。

居宅については、区分1が19%と多かった。区分2、3も多く、1～3を合計すると65%であった。区分6は9%と少なかった。

表20 障害程度区分と住居

p < 0.01

			住 居			合計
			入所施設	GHCH	居宅	
障害程度区分	区分 1	度数	0	5	11	16
		住居の %	0.0	2.9	19.3	3.2
		調整済み残差	-4.46	-0.25	7.40	
	区分 2	度数	1	56	12	69
		住居の %	0.4	32.4	21.1	13.6
		調整済み残差	-9.55	8.87	1.74	
	区分 3	度数	36	57	14	107
		住居の %	13.0	32.9	24.6	21.1
		調整済み残差	-4.91	4.70	0.68	
	区分 4	度数	75	32	6	113
		住居の %	27.1	18.5	10.5	22.3
		調整済み残差	2.84	-1.48	-2.26	
	区分 5	度数	84	12	9	105
		住居の %	30.3	6.9	15.8	20.7
		調整済み残差	5.86	-5.51	-0.97	
	区分 6	度数	81	11	5	97
		住居の %	29.2	6.4	8.8	19.1
		調整済み残差	6.35	-5.26	-2.11	
合計		度数	277	173	57	507
		住居の %	100.0	100.0	100.0	100.0

1セル(5.6%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は1.80です。

(3) 就労の状況と住居 (表 21)

就労の状況と住居との間に関連性があるかどうかをみるために、クロス表を作成し、 χ^2 二乗検定を行ったところ、有意差が見られた。したがって、就労の状況と住居との間には関連性があるといえよう。

入所施設は、就労中は0であった。就労経験ありが27%と少なく、なしが73%で多かった。

グループホーム・ケアホームには、就労中の利用者が9%いた。就労経験ありは47%、なしが44%であった。

居宅には、就労中の者が7%いた。そして、就労経験ありが41%、なしが52%であった。

表21 就労の状況と住居

p < 0.01

			住 居			合計
			入所施設	GHCH	居宅	
就労の状況 内訳	就労中	度数	0	16	5	21
		住居の %	0.0	8.9	6.7	3.9
		調整済み残差	-4.96	4.27	1.34	
	就労経験あり	度数	76	84	31	191
		住居の %	26.6	46.9	41.3	35.4
		調整済み残差	-4.54	3.96	1.16	
	就労経験なし	度数	210	79	39	328
		住居の %	73.4	44.1	52.0	60.7
		調整済み残差	6.41	-5.56	-1.67	
合計		度数	286	179	75	540
		住居の %	100.0	100.0	100.0	100.0

1セル(11.1%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は2.92です。

(4) 健康の状況と住居 (表 22)

健康の状況と住居との間に関連性があるかどうかをみるために、クロス表を作成し、 χ^2 二乗

検定を行ったところ、有意差が見られた。したがって、健康の状況と住居との間には関連性があるといえよう。

入所施設は、元気な者は53%であった。定期的に診断を受け服薬している者が42%であった。

グループホーム・ケアホームには、元気な者が51%いた。定期的に診断を受け服薬している者が47%であった。

居宅には、元気な者が76%と多かった。定期的に診断を受け服薬している者は16%と少なかった。

表22 健康の状況と住居

p < 0.05

			住 居			合計
			入所施設	GHCH	居宅	
健康の状況	元気	度数	90	48	37	175
		住居の%	52.9	50.5	75.5	55.7
		調整済み残差	-1.08	-1.22	3.03	
	やや病弱	度数	4	2	2	8
		住居の%	2.4	2.1	4.1	2.5
		調整済み残差	-0.24	-0.33	0.74	
	服薬	度数	72	45	8	125
		住居の%	42.4	47.4	16.3	39.8
		調整済み残差	1.00	1.80	-3.66	
	寝たり起きたり	度数	2	0	1	3
		住居の%	1.2	0.0	2.0	1.0
		調整済み残差	0.44	-1.15	0.85	
	入院中	度数	2	0	1	3
		住居の%	1.2	0.0	2.0	1.0
		調整済み残差	0.44	-1.15	0.85	
合計		度数	170	95	49	314
		住居の%	100.0	100.0	100.0	100.0

9セル(60.0%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は.47です。

(5) 神経学的異常の有無と住居

神経学的異常の有無と住居との関連性を見るために、各神経学的異常ごとにクロス表を作成し、 χ^2 乗検定を行った。検定の結果、有意差が見られた場合については、残差分析を行い、さらに検討した。各神経学的異常の評価は、「有」「無」「不明」の3段階であった。以下、検定結果に基づきながら各神経学的異常と住居との関連性について述べる。

①言語障害の有無と住居 (表 23 - 1)

χ^2 乗検定の結果、有意差が見られた。したがって、言語障害の有無と住居との間には関連性があるといえることができる。

入所施設の場合、言語障害の有が18%とグループホーム・ケアホームや居宅と比べて多かった。

グループホーム・ケアホームは有が8%と最も少なかった。

居宅は14%で中間であった。

②嚥下障害の有無と住居 (表 23 - 2)

χ^2 乗検定の結果、有意差が見られた。したがって、嚥下障害の有無と住居との間には関連性があるといえることができる。

入所施設の場合、嚥下障害の有が23%とグループホーム・ケアホームや居宅と比べて多かった。

グループホーム・ケアホームは有が6%と最も少なかった。

居宅は10%で中間であった。

③歩行障害の有無と住居 (表 23 - 3)

χ 二乗検定の結果、有意差が見られた。したがって、歩行障害の有無と住居の間には関連性があるといえることができる。

入所施設は、歩行障害の有が41%とグループホーム・ケアホームや居宅と比べて多かった。

グループホーム・ケアホームは有が15%と最も少なかった。

居宅は28%で入所施設と居宅との中間であった。

④麻痺の有無と住居

χ 二乗検定の結果、有意差は見られなかった。したがって、麻痺の有無と住居の間には関連性が認められないといえることができる。

⑤不随意運動の有無と住居

χ 二乗検定の結果、有意差は見られなかった。したがって、不随意運動の有無と住居の間には関連性が認められないといえることができる。

⑥てんかん性痙攣発作の有無と住居

χ 二乗検定の結果、有意差は見られなかった。したがって、てんかん性痙攣発作の有無と住居の間には関連性が認められないといえることができる。

表23-1 言語障害の有無と住居

p < 0.01

			住 居			合計
			入所施設	GHCH	居宅	
言語障害 有無不明	有	度数	41	11	7	59
		住居の %	18.0	8.1	14.0	14.3
		調整済み残差	2.40	-2.51	-0.05	
	無	度数	172	122	42	336
		住居の %	75.4	89.7	84.0	81.2
		調整済み残差	-3.30	3.11	0.55	
	不明	度数	15	3	1	19
		住居の %	6.6	2.2	2.0	4.6
		調整済み残差	2.14	-1.62	-0.93	
合計		度数	228	136	50	414
		住居の %	100.0	100.0	100.0	100.0

1セル(11.1%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は2.29です。

表23-2 嚥下障害の有無と住居

p < 0.01

			住 居			合計
			入所施設	GHCH	居宅	
嚥下障害 有無不明	有	度数	51	8	5	64
		住居の %	22.8	5.9	10.2	15.7
		調整済み残差	4.34	-3.81	-1.12	
	無	度数	169	127	43	339
		住居の %	75.4	94.1	87.8	83.1
		調整済み残差	-4.54	4.16	0.93	
	不明	度数	4	0	1	5
		住居の %	1.8	0.0	2.0	1.2
		調整済み残差	1.13	-1.58	0.55	
合計		度数	224	135	49	408
		住居の %	100.0	100.0	100.0	100.0

3セル(33.3%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は.60です。

表23-3 歩行障害の有無と住居

p < 0.01

			住 居			合計
			入所施設	GHCH	居宅	
歩行障害 有無不明	有	度数	94	21	15	130
		住居の %	40.5	15.2	27.8	30.7
		調整済み残差	4.84	-4.79	-0.49	
	無	度数	137	115	38	290
		住居の %	59.1	83.3	70.4	68.4
		調整済み残差	-4.55	4.60	0.33	
	不明	度数	1	2	1	4
		住居の %	0.4	1.4	1.9	0.9
		調整済み残差	-1.20	0.75	0.74	
合計		度数	232	138	54	424
		住居の %	100.0	100.0	100.0	100.0

3セル(33.3%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は.51です。

(6) 毎日の行動範囲と住居 (表 24)

χ^2 乗検定の結果、有意差が見られた。したがって、毎日の行動範囲と住居の間には関連性があるといえることができる。

入所施設は、「行動は活発」が7%で、3種類の住居の中では最も少なかった。行動範囲が「ホーム内、家庭内」は37%、「居室中心」が10%で、いずれも3種類の住居の中では最も多かった。

グループホーム・ケアホームは「行動は活発」が32%で、3種類の住居の中では中間であった。「生活寮周辺、家庭付近」は51%と最も多かった。「ホーム内、家庭内」は14%であった。

居宅は、「行動は活発」が49%で、3種類の住居の中では最も多かった。「生活寮周辺、家庭付近」は22%、「ホーム内、家庭内」は21%と比較的少なかった。

表24 毎日の行動範囲と住居

p < 0.01

			住 居			合計
			入所施設	GHCH	居宅	
毎日の行動範囲	行動活発	度数	20	58	38	116
		住居の %	7.0	32.2	49.4	21.3
		調整済み残差	-8.64	4.36	6.48	
	生活寮周辺、家庭付近	度数	126	91	17	234
		住居の %	43.9	50.6	22.1	43.0
		調整済み残差	0.44	2.50	-4.01	
	ホーム内家庭内	度数	106	26	16	148
		住居の %	36.9	14.4	20.8	27.2
		調整済み残差	5.39	-4.70	-1.37	
	居室中心	度数	29	4	4	37
		住居の %	10.1	2.2	5.2	6.8
		調整済み残差	3.23	-2.98	-0.60	
	ほとんど寝たきり	度数	5	1	2	8
		住居の %	1.7	0.6	2.6	1.5
		調整済み残差	0.56	-1.25	0.89	
	寝たきり	度数	1	0	0	1
		住居の %	0.3	0.0	0.0	0.2
		調整済み残差	0.95	-0.70	-0.41	
合計		度数	287	180	77	544
		住居の %	100.0	100.0	100.0	100.0

6セル(33.3%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は.14です。

(7) 日常生活動作の状況と住居

日常生活動作の状況と住居との関連性を見るために、各動作ごとにクロス表を作成し、 χ^2 乗検定を行ったところ、寝返りを除いた全ての動作で有意差が見られた。それ故、日常生活動作の状況と住居の間には関連性があるといえよう。各動作についての評価は、その大部分が「自

立」「見守り又は注意が必要」(以下、「見守り注意」と記述)「一部介助」「全介助」の4段階であった。以下、検定結果に基づきながら各動作と住居との関連性について述べる。

①寝返りと住居

寝返りについては、3種類の住居とも、無記入以外は、すべて「自立」であった。

②座位保持と住居 (表 25 - 1)

入所施設の場合、座位保持の「自立」は64%と他の2種類の住居に比べて少なかった。「注意が必要」が15%、「支えが必要」が19%と多かった。

グループホーム・ケアホームは「自立」が89%と他の2種類の住居に比べて最も多かった。「注意が必要」が5%、「支えが必要」が6%と少なかった。

居宅は「自立」が82%と多く、「注意が必要」が11%、「支えが必要」が7%であった。

③移動と住居 (表 25 - 2)

入所施設は、移動の「自立」は27%と他の2種類の住居に比べて少なかった。「見守り」が21%であった。「一部介助」は40%で他の2種類の住居に比べて多かった。「全介助」も12%と多かった。

グループホーム・ケアホームは「自立」が58%と比較的多かった。「見守り」も23%と他の2種類の住居に比べて多かった。「一部介助」は15%、「全介助」が4%で他の2種類の住居に比べて少なかった。

居宅は「自立」が62%で他の2種類の住居に比べて多かった。「見守り」が15%、「一部介助」が17%、「全介助」が7%と比較的少なかった。

④食事と住居 (表 25 - 3)

入所施設は、食事の「自立」は32%と他の2種類の住居に比べて少なかった。「見守り」が33%で多かった。「一部介助」も29%で他の2種類の住居に比べて多かった。「全介助」も6%と多かった。

グループホーム・ケアホームは「自立」が64%と居宅とほぼ同じであった。「見守り」が25%と居宅とほぼ同じであった。「一部介助」は10%、「全介助」が1%であった。

居宅は「自立」が65%で多かった。「見守り」が24%、「一部介助」が9%、「全介助」が3%と比較的少なかった。

⑤排泄と住居 (表 25 - 4)

入所施設は、排泄の「自立」は35%と他の2種類の住居に比べて少なかった。「見守り」が13%、「一部介助」が38%で他の2種類の住居に比べて多かった。「全介助」も14%と多かった。

グループホーム・ケアホームは「自立」が69%と比較的多かった。「見守り」が8%、「一部介助」は21%と比較的少なかった。

居宅は「自立」が72%で多かった。「見守り」が7%、「一部介助」が17%で他の2種類の住居に比べて少なかった。「全介助」も4%と比較的少なかった。

⑥入浴と住居（表 25 - 5）

入所施設は、入浴の「自立」は15%と他の2種類の住居に比べて40%以上少なかった。「見守り」が15%であった。「一部介助」が41%、「全介助」が29%と他の2種類の住居に比べて多かった。

グループホーム・ケアホームは「自立」が56%と居宅と同様、多かった。「見守り」は13%であった。「一部介助」は21%と比較的少なかった。「全介助」は11%と他の2種類の住居に比べて少なかった。

居宅は「自立」が56%で多かった。「見守り」が12%、「一部介助」が19%で他の2種類の住居に比べていくらか少なかった。「全介助」も13%と比較的少なかった。

⑦整容と住居（表 25 - 6）

入所施設は、整容の「自立」は17%と他の2種類の住居に比べて約30%少なかった。「見守り」も13%で少なかった。「一部介助」が44%、「全介助」が26%と他の2種類の住居に比べて多かった。

グループホーム・ケアホームは「自立」が47%と居宅と同様、多かった。「見守り」は17%であった。「一部介助」は30%と比較的少なかった。「全介助」は6%と他の2種類の住居に比べて少なかった。

居宅は「自立」が49%で多かった。「見守り」が20%、「一部介助」が22%で他の2種類の住居に比べて少なかった。「全介助」も9%と比較的少なかった。

⑧着衣と住居（表 25 - 7）

入所施設は、着衣の「自立」は30%と他の2種類の住居に比べて30%以上少なかった。「見守り」は20%であった。「一部介助」が38%、「全介助」が13%と他の2種類の住居に比べて多かった。

グループホーム・ケアホームは「自立」が62%と居宅と同様、多かった。「見守り」は17%であった。「一部介助」は19%と比較的少なかった。「全介助」は2%と他の2種類の住居に比べて少なかった。

居宅は「自立」が66%で多かった。「見守り」が15%、「一部介助」が16%で他の2種類の住居に比べて少なかった。「全介助」も4%と比較的少なかった。

⑨服薬と住居（表 25 - 8）

入所施設は、服薬の「自立」は8%と他の2種類の住居に比べて一段と少なかった。「見守り」は9%で他の住居と比べて少なかった。「一部介助」についても19%と少なかった。「全介助」が64%と他の2種類の住居に比べて50%以上多かった。

グループホーム・ケアホームは「自立」が35%と入所施設と居宅の中間にあった。「見守り」は24%、「一部介助」は31%といずれも他の2種類の住居に比べて多かった。「全介助」は10%と少なかった。

居宅は「自立」が56%で他の2種類の住居と比較して多かった。「見守り」が17%、「一部介助」も17%であった。「全介助」は11%と比較的少なかった。

表25-1 座位保持と住居

p < 0.01

			住居			合計
			入所施設	GHCH	居宅	
座位保持 現在の状況	自立	度数	181	162	62	405
		住居の%	63.5	89.0	81.6	74.6
		調整済み残差	-6.23	5.48	1.51	
	注意が必要	度数	42	9	8	59
		住居の%	14.7	4.9	10.5	10.9
		調整済み残差	3.05	-3.15	-0.10	
	支えが必要	度数	54	11	5	70
		住居の%	18.9	6.0	6.6	12.9
		調整済み残差	4.43	-3.38	-1.77	
	できない	度数	8	0	1	9
		住居の%	2.8	0.0	1.3	1.7
		調整済み残差	2.21	-2.15	-0.25	
合計		度数	285	182	76	543
		住居の%	100.0	100.0	100.0	100.0

3セル(25.0%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は1.26です。

表25-2 移動と住居

p < 0.01

			住居			合計
			入所施設	GHCH	居宅	
移動 現在の状況	自立	度数	75	105	47	227
		住居の%	26.6	57.7	61.8	42.0
		調整済み残差	-7.60	5.25	3.77	
	見守り	度数	59	42	11	112
		住居の%	20.9	23.1	14.5	20.7
		調整済み残差	0.11	0.95	-1.45	
	一部介助	度数	114	28	13	155
		住居の%	40.4	15.4	17.1	28.7
		調整済み残差	6.30	-4.88	-2.41	
	全介助	度数	34	7	5	46
		住居の%	12.1	3.8	6.6	8.5
		調整済み残差	3.08	-2.77	-0.65	
合計		度数	282	182	76	540
		住居の%	100.0	100.0	100.0	100.0

0セル(0%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は6.47です。

表25-3 食事と住居

p < 0.01

			住居			合計
			入所施設	GHCH	居宅	
食事 現在の状況	自立	度数	91	117	49	257
		住居の%	32.4	63.9	64.5	47.6
		調整済み残差	-7.37	5.44	3.18	
	見守り	度数	92	46	18	156
		住居の%	32.7	25.1	23.7	28.9
		調整済み残差	2.06	-1.38	-1.08	
	一部介助	度数	80	19	7	106
		住居の%	28.5	10.4	9.2	19.6
		調整済み残差	5.39	-3.87	-2.47	
	全介助	度数	18	1	2	21
		住居の%	6.4	0.5	2.6	3.9
		調整済み残差	3.15	-2.88	-0.61	
合計		度数	281	183	76	540
		住居の%	100.0	100.0	100.0	100.0

1セル(8.3%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は2.96です。

表25-4 排泄と住居

p < 0.01

			住居			合計
			入所施設	GHCH	居宅	
排泄 現在の状況	自立	度数	98	126	55	279
		住居の%	34.9	69.2	72.4	51.8
		調整済み残差	-8.19	5.79	3.88	
	見守り	度数	36	15	5	56
		住居の%	12.8	8.2	6.6	10.4
		調整済み残差	1.92	-1.17	-1.17	
	一部介助	度数	107	38	13	158
		住居の%	38.1	20.9	17.1	29.3
		調整済み残差	4.67	-3.07	-2.52	
	全介助	度数	40	3	3	46
		住居の%	14.2	1.6	3.9	8.5
		調整済み残差	4.94	-4.09	-1.54	
合計		度数	281	182	76	539
		住居の%	100.0	100.0	100.0	100.0

0セル(.0%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は6.49です。

表25-5 入浴と住居

p < 0.01

			住居			合計
			入所施設	GHCH	居宅	
入浴 現在の状況	自立	度数	42	102	42	186
		住居の%	14.8	55.7	56.0	34.3
		調整済み残差	-10.05	7.50	4.26	
	見守り	度数	42	23	9	74
		住居の%	14.8	12.6	12.0	13.7
		調整済み残差	0.81	-0.53	-0.45	
	一部介助	度数	117	38	14	169
		住居の%	41.2	20.8	18.7	31.2
		調整済み残差	5.28	-3.74	-2.52	
	全介助	度数	83	20	10	113
		住居の%	29.2	10.9	13.3	20.8
		調整済み残差	5.04	-4.06	-1.73	
合計		度数	284	183	75	542
		住居の%	100.0	100.0	100.0	100.0

0セル(.0%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は10.24です。

表25-6 整容と住居

p < 0.01

			住居			合計
			入所施設	GHCH	居宅	
整容 現在の状況	自立	度数	49	85	37	171
		住居の%	17.3	46.7	48.7	31.5
		調整済み残差	-7.51	5.40	3.47	
	見守り	度数	37	31	15	83
		住居の%	13.0	17.0	19.7	15.3
		調整済み残差	-1.55	0.79	1.15	
	一部介助	度数	124	55	17	196
		住居の%	43.7	30.2	22.4	36.2
		調整済み残差	3.81	-2.05	-2.70	
	全介助	度数	74	11	7	92
		住居の%	26.1	6.0	9.2	17.0
		調整済み残差	5.91	-4.82	-1.94	
合計		度数	284	182	76	542
		住居の%	100.0	100.0	100.0	100.0

0セル(.0%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は11.64です。

表25-7 着衣と住居

p < 0.01

			住居			合計
			入所施設	GHCH	居宅	
着衣 現在の状況	自立	度数	86	114	50	250
		住居の%	30.2	62.3	65.8	46.0
		調整済み残差	-7.75	5.44	3.74	
	見守り	度数	56	31	11	98
		住居の%	19.6	16.9	14.5	18.0
		調整済み残差	1.04	-0.46	-0.87	
	一部介助	度数	107	35	12	154
		住居の%	37.5	19.1	15.8	28.3
		調整済み残差	5.02	-3.39	-2.61	
	全介助	度数	36	3	3	42
		住居の%	12.6	1.6	3.9	7.7
		調整済み残差	4.50	-3.78	-1.33	
合計		度数	285	183	76	544
		住居の%	100.0	100.0	100.0	100.0

0セル(.0%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は5.87です。

表25-8 服薬と住居

p < 0.01

			住居			合計
			入所施設	GHCH	居宅	
服薬 現在の状況	自立	度数	23	63	40	126
		住居の%	8.1	35.0	55.6	23.6
		調整済み残差	-8.91	4.44	6.88	
	見守り	度数	25	43	12	80
		住居の%	8.8	23.9	16.7	15.0
		調整済み残差	-4.21	4.13	0.44	
	一部介助	度数	54	56	12	122
		住居の%	19.1	31.1	16.7	22.8
		調整済み残差	-2.17	3.26	-1.33	
	全介助	度数	181	18	8	207
		住居の%	64.0	10.0	11.1	38.7
		調整済み残差	12.72	-9.70	-5.17	
合計		度数	283	180	72	535
		住居の%	100.0	100.0	100.0	100.0

0セル(.0%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は10.77です。

(8) 日常の意思疎通等の状況と住居

日常の意思疎通等の状況と住居との関連性を見るために、意思疎通の各項目ごとにクロス表を作成し、 χ 二乗検定を行ったところ、全ての項目で有意差が見られた。それ故、日常の意思疎通等の項目と住居の間には関連性があるといえよう。各項目についての評価は、「ほぼできる」段階、「一部できる」段階、「ほとんどできない」段階の3段階であった。以下、検定結果に基づきながら各動作と事業種別との関連性について述べる。

①意思決定と住居 (表26-1)

入所施設は意思決定が「ほぼ自分でできる」は28%と最も少なかった。「興味のある事に関してはできる」は50%、「日常的に困難・できない」は22%でいずれも他の2種類の住居に比べて多かった。

グループホーム・ケアホームは「ほぼ自分でできる」は53%と比較的多かった。「興味のある事に関してはできる」は40%で入所施設と居宅の中間にあった。「日常的に困難・できない」は7%と比較的少なかった。

居宅は、「ほぼ自分でできる」は63%と他の2種類の住居に比べて多かった。「興味のある事

に関してはできる」は28%で他の2種類の住居に比べて少なかった。「日常的に困難・できない」も他の2種類の住居に比べて少なかった。

②日課の理解と住居（表26－2）

入所施設は、「日々の日課を理解できる」は53%で他の2種類の住居に比べて最も少なかった。「食事や就寝の時間は理解している」は29%で最も多かった。「ほとんど理解していない」は18%で他の2種類の住居と比較すると多かった。

グループホーム・ケアホームは「日々の日課を理解できる」は88%と多かった。「食事や就寝の時間は理解している」は10%と比較的少なかった。「ほとんど理解していない」は2%で最も少なかった。

居宅は、「日々の日課を理解できる」は85%と多かった。「食事や就寝の時間は理解している」は13%で少なかった。「ほとんど理解していない」も3%でグループホーム・ケアホーム同様少なかった。

③意思伝達と住居（表26－3）

入所施設は、「だいたい自分の意思を伝えられる」が38%で他の2種類の住居に比べて少なかった。「興味のある事に関して伝えられる」は42%で最も多かった。「ほとんど伝えられない・できない」は20%で他の2種類の住居と比較すると多かった。

グループホーム・ケアホームは「だいたい自分の意思を伝えられる」は67%と多かった。「興味のある事に関して伝えられる」は30%と比較的少なかった。「ほとんど伝えられない・できない」は3%で最も少なかった。

居宅は、「だいたい自分の意思を伝えられる」は65%と多かった。「興味のある事に関して伝えられる」は27%で少なかった。「ほとんど伝えられない・できない」も8%で比較的少なかった。

④指示への反応と住居（表26－4）

入所施設は、指示への反応に関して、「だいたい通じている」が53%で他の2種類の住居に比べて少なかった。「特定のことで通じる」は37%で最も多かった。「ほとんど通じない・通じない」は11%で他の2種類の住居と比較すると多かった。

グループホーム・ケアホームは「だいたい通じている」は76%と多かった。「特定のことで通じる」は24%と比較的少なかった。「ほとんど通じない・通じない」は0であった。

居宅は「だいたい通じている」は74%と多かった。「特定のことで通じる」は24%と比較的少なかった。「ほとんど通じない・通じない」は3%であった。

V 分析

表26-1 意思決定 と住居

p < 0.01

			住居			合計
			入所施設	GHCH	居宅	
意思決定 日常の 意思疎通等	ほぼ自分でできる	度数	80	96	49	225
		住居の %	27.9	52.7	62.8	41.1
		調整済み残差	-6.62	3.90	4.20	
	興味のある事に関 してはできる	度数	143	73	22	238
		住居の %	49.8	40.1	28.2	43.5
		調整済み残差	3.13	-1.13	-2.94	
	日常的に困難・でき ない	度数	64	13	7	84
		住居の %	22.3	7.1	9.0	15.4
		調整済み残差	4.73	-3.76	-1.69	
合計		度数	287	182	78	547
		住居の %	100.0	100.0	100.0	100.0

0セル(.0%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は11.98です。

表26-2 日課の理解 と住居

p < 0.01

			住居			合計
			入所施設	GHCH	居宅	
日課の理解 日常 の意思疎通等	日々の日課を理解 できる	度数	153	160	66	379
		住居の %	53.3	88.4	84.6	69.4
		調整済み残差	-8.60	6.78	3.15	
	食事や就寝の時間 は理解している	度数	83	18	10	111
		住居の %	28.9	9.9	12.8	20.3
		調整済み残差	5.25	-4.25	-1.78	
	ほとんど理解してい ない	度数	51	3	2	56
		住居の %	17.8	1.7	2.6	10.3
		調整済み残差	6.09	-4.66	-2.42	
合計		度数	287	181	78	546
		住居の %	100.0	100.0	100.0	100.0

0セル(.0%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は8.00です。

表26-3 意思伝達と住居

p < 0.01

			住居			合計
			入所施設	GHCH	居宅	
意思伝達 日常の 意思疎通等	だいたい自分の意 思を伝えられる	度数	108	123	50	281
		住居の %	37.6	67.2	64.9	51.4
		調整済み残差	-6.76	5.26	2.57	
	興味のある事に関 して伝えられる	度数	121	54	21	196
		住居の %	42.2	29.5	27.3	35.8
		調整済み残差	3.24	-2.19	-1.69	
	ほとんど伝えられな い・できない	度数	58	6	6	70
		住居の %	20.2	3.3	7.8	12.8
		調整済み残差	5.45	-4.73	-1.42	
合計		度数	287	183	77	547
		住居の %	100.0	100.0	100.0	100.0

0セル(.0%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は9.85です。

表26-4 指示への反応と住居

p < 0.01

			住居			合計
			入所施設	GHCH	居宅	
指示への反応 日 常の意思疎通等	だいたい通じている	度数	151	138	56	345
		住居の %	52.6	75.8	73.7	63.3
		調整済み残差	-5.46	4.29	2.02	
	特定の事だけ通じ る	度数	105	44	18	167
		住居の %	36.6	24.2	23.7	30.6
		調整済み残差	3.17	-2.32	-1.42	
	ほとんど通じない・ 通じない	度数	31	0	2	33
		住居の %	10.8	0.0	2.6	6.1
		調整済み残差	4.90	-4.20	-1.35	
合計		度数	287	182	76	545
		住居の %	100.0	100.0	100.0	100.0

1セル(11.1%)は期待度数が5未満です。最小期待度数は4.60です。